

公立鳥取環境大学

研究者総覧

2026

■ 環境学部

■ 経営学部

■ 人間形成教育センター



RESEARCHERS FILE 2026



公立鳥取環境大学
Tottori University of Environmental Studies



研究キーワード 動物の行動, 野生生物の生態と保護, 小型哺乳類の対捕食者防衛行動を中心にした動物行動学的・生態学的研究

小林 朋道

理事長兼学長

KOBAYASHI, Tomomichi

t-kobaya@kankyo-u.ac.jp

■専門分野 動物行動学, 進化心理学

現在の研究テーマ

- ・小型哺乳類の対捕食者防衛行動を中心にした動物行動学的・生態学的研究
- ・生物多様性の向上を経済的発展に結びつけるビジネス化の試み

■著書

- ・「先生、カタツムリが背中のかさを修復しています！」(単著) 2025年10月築地書館
- ・「ウソみたいな動物の話を大学の先生に解説してもらいました」(単著) 2025年2月秀和システム
- ・「先生、ヤギとイルカは親戚なのですか！」鳥取環境大学の森の人間動物行動学(単著) 2025年1月築地書館
- ・「モフモフはなぜ可愛いのかー動物行動学でヒトを解き明かす」(単著) 2024年2月, 新潮社
- ・「動物行動学者, モモンガに怒られる」身近な野生動物との共存(単著) 2022年5月山と溪谷社
- ・「フィールドワークという魔力」中央公論 Digital Digest (共著) 2019年9月 中央公論社

■論文

- ・ケブカクモバエは体毛からのニオイを手がかりに自然宿主ユビナガコウモリを選択しているのか(単著) 自然環境科学研究 36 巻 p.1-7 2023年12月
- ・ニホンヤマネにおけるフクロウの鳴き声に関する認知と記憶(単著) 山陰自然史研究 27 巻 2022年12月
- ・鳥取県内における洞窟性コウモリの生息状況 鳥取県立博物館研究報告(単著) 55巻 2018年3月
- ・Why do small Japanese flying squirrels Pteromys momonga prefer to use bark of Japanese cedar as a nest material? (単著), 2012年12月 Natural Environmental Science Research 第25巻

■受賞歴 1993 (平成5) 年 岡山県野崎教育賞

■所属学会 日本動物行動学会, 日本生態学会, 日本環境教育学会

■取得学位 理学博士 (京都大学)

■略歴

- 1981年3月 岡山大学理学部生物学科卒業
- 2004年1月 鳥取環境大学環境情報学部環境政策学科助教授
- 2024年4月 公立鳥取環境大学理事長兼学長

研究活動等

プロフィール

《研究内容の紹介・授業の特徴等》

「小型哺乳類の対捕食者防衛行動を中心にした動物行動学的・生態学的研究」および「生物多様性の向上を経済的発展に結びつけるビジネス化の試み」



研究キーワード 物権・担保物権法, 債権法, 不法行為と損害賠償責任, 区分所有法の改正, 消費者契約

中山 実郎

理事兼副学長 (学生生活・就職, 広報, 情報担当), 学生支援センター長
特任教授

NAKAYAMA, Jitsuro

所属…経営学部 経営学科

j-nakaya@kankyo-u.ac.jp

■専門分野 民法 (財産法), 消費者法, ビジネス法務

現在の研究テーマ

- ・契約当事者の説明義務と消費者保護
- ・責任無能力者と損害賠償責任
- ・不動産登記の義務化

■著書

- ・民法 I (総則・物権・担保物権) 単著 2011年 3月 文教出版会

■論文

- ・自筆遺言証書の成立日と相違する日付が記載された遺言の効力 単著 2023年 公立鳥取環境大学紀要 2023
- ・所有権留保と集合動産譲渡担保との優劣関係についての再検討 単著 2022年 公立鳥取環境大学紀要 2022
- ・グループ会社従業員に対する親会社の対応義務 単著 2020年 公立鳥取環境大学紀要 17巻1号
- ・節税目的でなされた養子縁組と縁組意思の有無 単著 2019年 公立鳥取環境大学紀要 16巻16号
- ・債務者が異議をとどめないでした指名債権譲渡の承諾と譲受人の主観的要件 単著 2018年 3月 大阪国際大学国際研究論叢 第31巻3号
- ・自筆証書遺言の方式に関する近時の最高裁判決 単著 2018年 1月 大阪国際大学国際研究論叢 第31巻 2号
- ・主債務者が反社会的勢力であった場合の錯誤無効と保証契約の付随義務違反 単著 2017年 3月 大阪国際大学国際研究論叢 第30巻3号
- ・責任弁識能力のない未成年者の親権者の監督義務 単著 2016年10月 大阪国際大学国際研究論叢 第30巻 2号
- ・法定代理人がない事理弁識能力を欠く常況にある者と民法158条1項の類推適用 単著 2016年 3月 大阪国際大学国際研究論叢 第29巻3号
- ・主債務を単独相続した保証人による債務の弁済と時効の中断 単著 2015年10月 大阪国際大学国際研究論叢 第29巻1号
- ・承役地の担保不動産競売における未登記通行地役権の消長 単著 2015年 3月 大阪国際大学国際研究論叢 第28巻3号

■所属学会

日本法政学会, 関西法政治研究会, 青森法学会, 日本リスクマネジメント学会, 日本政治法律学会

■取得学位 法学修士 (明治大学)

■略歴

2026年4月～ 公立鳥取環境大学 理事兼副学長 学生支援センター長 経営学部特任教授

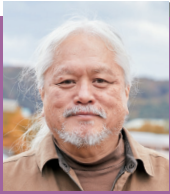
■主な担当科目 企業法概論, 民法1, 民法2 演習1～3

研究活動等

プロフィール

《研究内容の紹介・授業等の特徴》

民法を中心に, ビジネス法務, 消費者法を研究領域にしています。また, 登記制度や区分所有法の改正に伴い, 所有者不明不動産の問題, マンションの修繕や建替えに関する法領域にも関心の範囲を広げています。



研究キーワード 森林社会生態システム論 (FSSES), 森林管理, 先住民, ファミリーフォレスト, コモンズ

根本 昌彦

NEMOTO, Akihiko

副学長 (教育, 入試, 研究, 地域連携・国際交流, 企画・評価担当),
アドミッションセンター長
教授

所属…環境学部 環境学科 大学院 環境経営研究科 環境学専攻

■専門分野 森林資源管理学, 森林政策学

現在の研究テーマ: 「持続可能な森林管理」の達成に向けた政策など

■著書

- ・『カナダーなかなか進まない先住民による森林管理』, 『森林環境2006』, 2006年, 朝日新聞社
- ・『森林認証制度の国際動向』, 『森林認証と林業・木材産業』, 2004年, 林業改良普及協会

■論文

- ・韓国における森林政策の展開と山林組合 2023年, 森林組合No.631
- ・メキシコ土地保有制度の展開とコミュニティフォレスト 2021年, 森林組合No.607・スペインにおける森林
- ・世界の植林地造成の現状と将来展望-文献調査による論点の整理-, 2017年, 公立鳥取環境大学紀要vol.15
- ・熱帯林破壊を先導するアブラヤシ農園の拡大 - マレーシア, サバ州における土地利用の展開を事例として -, 2015年, 鳥取環境大学紀要 vol.14
- ・Dynamics of Aboriginal Land Use Institutions : The Rise and Fall of Community Control Over Reserve Systems in the Lil'wat Nation, Canadian Journal for Native Studies, Vol.22,2, 2002年
- ・カナダ先住民と土地財産権-リルワットネーション居留地におけるコモンズの形成と衰退, 1999年, 環境社会学研究vol.5.

■所属学会 林業経済学会, 環境社会学会

■取得学位 Ph.D. (ブリティッシュ・コロンビア大学)

■略歴

- 1986年3月 北海道大学農学部林学科卒業
- 1988年3月 北海道大学大学院農学研究科修士課程修了
- 1998年5月 カナダブリティッシュ・コロンビア大学学術博士 (Ph.D.)
- 2003年4月 全国森林組合連合会
- 2006年4月 鳥取環境大学環境情報学部環境政策学科教授
- 2024年4月 公立鳥取環境大学 教授 副学長

nemoto@kankyo-u.ac.jp

《研究内容の紹介・授業の特徴等》

「森林社会生態システム論 (FSSES)」の立場から研究をしています。最近では森林管理の歴史段階をコモンズレジーム, 科学・国家レジーム, 経済・市場レジーム, 環境・国際レジームとして捉え, 各国・地域の特徴を描き出そうと考えています。



研究キーワード 廃棄物, リサイクル, 食品ロス, レアメタル, 環境分析

門木 秀幸

MONGI, Hideyuki

環境学部長, 環境経営研究科長, 環境経営研究科環境学専攻長
准教授

所属…環境学部 環境学科 大学院 環境経営研究科 環境学専攻

■専門分野 環境分析, 廃棄物・リサイクル工学

現在の研究テーマ

- ・重金属の分析技術開発及びレアメタル等の再資源化技術に関する研究
- ・不法投棄及び海洋プラスチックに関する研究
- ・食品ロスに関する研究

■著書

- ・「廃棄物関連試料の分析マニュアル」, 2015年5月, 一般社団法人廃棄物資源循環学会 (共著)

■論文

- ・「六価クロム定量のための水酸化鉄(Ⅲ)共沈法における三価クロム除去に対する水酸化鉄(Ⅲ)沈殿の微細化の影響」(共著), 2023年, 分析化学, Vol.72, No.10・11, pp.425-430
- ・「焼却灰溶出液中の六価クロムの定量における水酸化鉄(Ⅲ)共沈時のpHの影響」(共著), 2022年, 分析化学, Vol.71, No.12, pp.679-685
- ・「ジフェニルカルバジド吸光光度法によるばいじん溶出試験でのクロム(Ⅳ)分析における妨害除去法の検討」(共著), 2017年, 分析化学, Vol.66, No.9, pp.693-698

■特許

- ・「廃電子基板からの金属の回収方法」(共同発明), 特許 2014-046258
- ・「ガラスからの重金属類の分離方法」(共同発明), 特許 2013-557511
- ・「ガラスからの重金属の分離方法」(共同発明), 特許 2012-248553

■所属学会 廃棄物資源循環学会, 資源・素材学会, 日本分析化学会

■資格 環境計量士(濃度関係)

■取得学位 博士(工学, 鳥取大学)

■略歴

- 1995年3月 信州大学大学院理学研究科化学専攻修士課程修了
- 1999年7月 鳥取県廃棄物対策課(〜平成14年3月)
- 2008年3月 鳥取大学大学院工学研究科社会開発工学専攻博士後期課程修了
- 2010年4月 鳥取県衛生環境研究所リサイクルチームチーム長
- 2020年10月 公立鳥取環境大学 環境学部環境学科 准教授

■主な担当科目 廃棄物マネジメント学, 廃棄物学入門

SDGs関連項目



《研究内容の紹介・授業の特徴等》

廃棄物, リサイクルに関する技術的な研究を行っています。主なテーマは, 重金属の分析技術の開発, レアメタルリサイクル, 食品ロスや海洋プラスチックごみ, 廃棄物処理施設の立地選定, 休廃止鉱山の坑廃水対策等です。

プロフィール



研究キーワード 水産資源, 魚類の初期生態

太田 太郎

OHTA, Taro

環境学部 副学部長
准教授

所属…環境学部 環境学科 大学院 環境経営研究科 環境学専攻

■専門分野 魚類生態学, 水産資源生物学, 漁業制度及び漁業法令

現在の研究テーマ

- ・水産生物の資源生態
- ・鳥取県における漁業制度

■著書

- ・「有明海のスズキの初期生態を探る」, 稚魚学ー多様な生理生態を探る(共著), 株式会社生物学研究者, 東京, 2008, pp. 277-286
- ・「耳石による回遊履歴追跡」, スズキと生物多様性(共著), 恒星社厚生閣, 東京, 2002, pp. 91-102.

■論文

- ・日本海西南部鳥取県沿岸で漁獲されるマアジのバックカリキュレーション法による成長解析. 水産技術: 2026: 18 1-8.
- ・かつて抗排水の流出により荒廃した, 鳥取県岩美郡岩美町の小田川・荒金川における魚類生態環境の回復状況. (共著) ホシザキグリーン財団研究報告 2026: 29 149-156.
- ・千代川(鳥取県)および河口周辺沿岸海域におけるサケ稚魚の出現記録. (共著) 水産海洋研究 2025: 89 219-222.
- ・鳥取県東部岩美町沿岸および河口域に出現する魚類稚魚. (共著) 鳥取県立博物館研究報告 2025: 62 1-13.
- ・日本海西南部鳥取県沿岸で漁獲されるマアジの産卵期と成長. (共著) 水産技術: 2024: 17 1-8.
- ・鳥取県千代川水系におけるカジカ中卵型の食性. (共著) 水生動物 2024: p. AA2024-18-.
- ・鳥取県千代川水系におけるカジカ種群の分布域と回遊. (共著) 水産学会誌:2023: 89: 365-367.
- ・鳥取県沿岸海域で採集したアユ仔稚魚の耳石日周輪解析による孵化日と初期成長の推定. (共著) 水産増殖 2022: 70: 343-352.
- ・湖山地沿岸部におけるテナガエビの出現動向. (共著) 鳥取県立博物館研究報告 2022: 59 1-8

■所属学会 日本水産学会 ほか

■取得学位 博士(農学)(京都大学)

■略歴

- 2002年4月〜2016年3月 鳥取県職員に採用 所属: 農林水産部水産振興局水産課, 鳥取県栽培漁業センター, 鳥取県水産試験場など
- 2016年4月 公立鳥取環境大学地域イノベーション研究センター特命准教授
- 2020年4月 公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授 兼 環境経営研究科環境学専攻准教授

URL <https://researchmap.jp/ohtataro>Eメール oota-t@kankyo-u.ac.jp

SDGs関連項目



《研究内容の紹介・授業の特徴等》

主に鳥取県内の河川や沿岸域に生息する生物の生態や, それらを取り巻く環境に関する研究を進めています。授業では, 水圏生物の分類や生態に加え, 漁業資源の管理・保全, 海洋系の実習などを担当しています。



研究活動等

プロフィール



研究キーワード 道德教育, 特別活動, 魅力ある学校づくり

前田 哲雄

特任教授

MAETA, Tetsuo

所属…環境学部 環境学科

■専門分野 道德教育, 学校経営

現在の研究テーマ

- ・人物の生き方に学ぶ道德教育
- ・自主的, 自治的な活動を生かした学校経営

■著書

- ・「道德教育を学ぶための重要項目100」(共著), 2016年, 教育出版社

■論文

- ・「総合的な学習の時間における「在り方生き方」教育に関する一考察」, 2022年, 公立鳥取環境大学紀要

■報告 「人物の生き方に学ぶ道德教育」, 2015年, 日本道德教育学会『道德と教育』(第333号)

■会報寄稿

- ・「自治会加入率の低下と道德教育」2025年, 『日本道德教育学会報』第85号
- ・「子供たちが道德授業に求めているもの～鳥取県道德教育研究会のあゆみから～」2021年, 『日本道德教育学会報』第66号
- ・「偉人等の「人生の転機」に焦点をあてた道德授業の必要性」2020年, 『日本道德教育学会報』第61号

■所属学会 日本道德教育学会, 日本特別活動学会, 日本生活科・総合的な学習教育学会

■資格 小学校普通免許1級 中学校普通免許2級数学

《研究内容の紹介・授業の特徴等》

道德教育・特別活動など, 学校教育の中の在り方生き方教育にかかわる科目の授業を担当。模擬授業等の体験的な学びを取り入れ, 実践的な授業力の育成をめざしている。

研究活動等

プロフィール

■取得学位 教育学士 (鳥取大学)

■略歴

- 2008年4月 鳥取市立大正小学校校長
- 2011年4月 鳥取市立浜村小学校校長
- 2014年4月 鳥取市立青谷中学校校長
- 2017年4月 鳥取市教育センター主任教育相談員
- 2018年4月 公立鳥取環境大学環境学部環境学科教授
- 2025年4月 公立鳥取環境大学環境学部環境学科特任教授

■主な担当科目

教職論, 道德教育の理論と指導法, 特別活動及び総合的な学習の時間の指導法, 教職実践演習



研究キーワード 理科教育, ICT活用教育, 学習科学

千代西尾 祐司

教授

CHIYONISHIO, Yuji

所属…環境学部 環境学科

■専門分野 理科教育, ICT活用教育, 学習科学

現在の研究テーマ

- ・子どもたちの学びを, より豊かにするための「アクティブラーニング」の視点を取り入れた教育実践の開発
- ・GIGAスクール構想における, 一人一台端末時代に応じた授業でのICT活用
- ・天体観望におけるテクノロジー活用. テクノロジーを用いた新しい視点での理科教材作成

■著書

- ・「主体的・対話的で深い学びに導く 学習科学ガイドブック」(編者), 2019年, 北大路書房

■論文

- ・「理科教育における, STEAM教育教材としての電視観望技術の実践的活用 - Plate Solving技術とCMOSカメラを活用した天体観望の運用 -」(共著), 2021年, 学校教育実践研究 vol.:4 (鳥根大学大学院教育学研究科)
- ・「理科単元学習内での協調学習による生徒の考えの変容 - 概念地図を用いた科学概念変化の見取り -」(共著), 2021年, 鳥根大学教育学部紀要.54巻
- ・「外国人児童生徒を有するクラスにおける「主体的, 対話的で深い学び」を指向した実践と展望 - 言語情報に依存しにくい教材による協働的な学びづくり -」(共著), 2020年, 学校教育実践研究 3 (鳥根大学大学院教育学研究科)
- ・「情報モラル指導分野での「考え議論する道德」 - 大学院生の出張型授業による地域貢献の取り組み -」(共著), 2018年, 学校教育実践研究 vol:1 (鳥根大学大学院教育学研究科)

■所属学会 日本公開天文台協会, 日本天文教育研究会

■取得学位 農学士 (鳥取大学)

■略歴

- 2007年4月 智頭町立智頭中学校 教諭
- 2008年4月 鳥取県教育委員会事務局 小中学校課 兼 高等学校課 指導主事
- 2011年4月 鳥取県教育委員会事務局 高等学校課 指導主事 (平成26年3月まで)
- 2013年4月 鳥取大学 客員准教授(兼務:1日/週) (平成27年3月まで)
- 2014年4月 鳥取県教育センター 指導主事(ICT活用教育担当)
- 2015年4月 鳥取県教育センター 教育企画研修課 課長補佐
- 2016年4月 鳥根大学大学院 教育学研究科 (教職大学院) 教授
- 2021年4月 公立鳥取環境大学環境学部環境学科 教授

■主な担当科目 理科指導法1. 2. 3. 4., 教育の方法と技術

《研究内容の紹介・授業の特徴等》

「学び」というものの考え方が変わってきています。「教え・教えられる」という姿から「学ばせ・学ぶ」という, 学ぶ人が主体となる学びを作るために多様な知見を学びます。ICT端末も学びの道具として使い, より良い学びを作るために, いろいろな方法を一緒に考えましょう。

研究活動等

プロフィール



研究キーワード 微生物生態学, 環境モニタリング, 窒素循環, 汽水, 分子生態

吉永 郁生

YOSHINAGA, Ikuo

地域イノベーション研究センター長
教授

所属…環境学部 環境学科 大学院 環境経営研究科 環境学専攻

✉ iyoshina@kankyo-u.ac.jp

SDGs関連項目



■専門分野 海洋微生物学, 微生物生態学, 環境ゲノム科学

現在の研究テーマ

- ・水圏の環境指標生物としての線虫の応用可能性
- ・汽水域の微生物の研究
- ・環境ゲノム解析による水圏生物の解析

■著書

- ・「海の世界微生物学-増補改訂版」(共著), 2025年, 恒星社厚生閣
- ・「難培養微生物研究の最新技術 II ―ゲノム解析を中心とした最前線と将来展望― (Current Technology and Perspectives for Yet-uncultivated Microbial Resources)」(共著), 2010年, シーエムシー出版

■論文

- ・「水質指標としての線虫の可能性」(丹著), 2025年, 用水と廃水
- ・「Diversity of anaerobic ammonium oxidation (anammox) bacteria in the sediment of a eutrophic freshwater lake」(共著), 2011年, Microb. Environ.

■受賞歴 1997年4月 水産学会奨励賞 2008年11月 日本微生物生態学会論文賞

■所属学会 日本微生物生態学会, 日本水産学会, 日本農芸化学会, 藻類学会, 環境DNA学会

■資格 第1種衛生管理者, 潜水士

■取得学位 農学博士 (京都大学)

■略歴

- 1985年3月 京都大学農学部水産学科卒業
- 1990年5月 京都大学大学院農学研究科博士後期課程退学, 京都大学農学部助手
- 1991年5月 京都大学農学博士学位取得
- 2013年4月 鳥取環境大学環境学部環境学科・大学院環境情報学研究科環境情報学専攻教授
- 2016年4月 公立鳥取環境大学地域イノベーション研究センター長・大学院環境情報研究科環境学専攻教授
- 2022年4月 公立鳥取環境大学人間形成教育センター副センター長 (～2026年3月)

■主な担当科目

海洋環境学, 環境ゲノム科学, 水域生態学, 自然環境保全実習・演習A, 自然環境保全概論

《研究内容の紹介・授業の特徴等》

DNAやRNA等の生物由来の情報から生物環境を評価する研究を行っています。そのため授業では数理モデルや生化学等のデータを用いて生物集団の挙動や環境情報を実用的に解析することを大切にしています。



大谷海岸(岩美町)における砂浜堆積物中の生物調査

研究活動等

プロフィール



研究キーワード 心理教育, 異文化, サブカルチャー

藤田 恵津子

教授

FUJITA, Etsuko

所属…環境学部 環境学科

■専門分野 臨床心理学, 教育心理学, 発達心理学

現在の研究テーマ

- ・心理教育 (怒りのマネージメント, ストレス・マネージメント)
- ・心理臨床とサブカルチャー
- ・異文化適応

■著書

- ・「改訂版はじめて学ぶ教育相談・生徒指導」(共著), 2024年3月, 金子書房
- ・「サブカルチャーのこころーオタクなカウンセラーがまじめに語ってみた」(共著), 2023年5月, 木立の文庫

■論文

- ・「『島のお墓に入りたい』と訴える女性との面接過程」, 2021年3月, 京都教育大学心理教育相談室紀要第18号
- ・「一卵性双生児の母親面接」, 2020年3月, 京都教育大学心理教育相談室紀要第17号
- ・「自分の人生を振り返る高齢女性の面接過程」, 2019年3月, 京都教育大学心理教育相談室紀要第16号
- ・「自分のキャリアを模索する青年期女性の面接過程」, 2018年3月, 京都教育大学心理教育相談室紀要第15号
- ・「摂食障害を抱える母親の面接過程」, 2017年3月, 京都教育大学心理教育相談室紀要第14号

■所属学会 日本心理臨床学会, 日本教育心理学会

■資格 公認心理師, 臨床心理士

■取得学位 教育学修士 (京都教育大学)

■略歴

- 2002年4月 京都教育大学附属桃山中学校帰国生徒学級相談室 相談員 (～2011年)
- 2004年4月 大阪府・市公立学校スクールカウンセラー (～2012年), 大阪府公立学校スクールカウンセラー (2026年～)
- 2005年4月 大阪府私立幼稚園連盟キッズカウンセラー (～現在)
- 2012年4月 鳥取環境大学環境学部環境学科講師
- 2024年4月 公立鳥取環境大学環境学部環境学科教授, 人間形成教育センター教授

■主な担当科目 教育心理学, 特別支援教育の理論と実践, 生徒・進路指導論

《研究内容の紹介・授業の特徴等》

カウンセリングにおいて、語りのプロセスがこころの回復に寄与することを研究しています。また、「こころ」の健康に関する心理教育は、カウンセリングと同様に大切なことであり、現在、学校園や社会人向けの研修などで取り組んでいます。

研究活動等

プロフィール



研究キーワード 花, 昆虫, 送粉

笠木 哲也

KASAGI, Tetsuya

教授

所属…環境学部 環境学科 大学院 環境経営研究科 環境学専攻

kasagi-t@kankyo-u.ac.jp

■**専門分野** 植物生態学, 送粉生態学, ハナバチ類
現在の研究テーマ
・植物の繁殖特性 ・送粉者の行動

論文

・Variation in flowering plant - bee linkages following experimental restoration of satoyama paddy fields. International Proceedings of Chemical, Biological and Environmental Engineering, 2017. 102 (共著)

研究発表

・鳥取県大山の森林におけるムラサキマユミの訪花昆虫相. 2025. 令和7年鳥取県生物学会 (共同)
・鳥取県西部の森林におけるヤマシャクヤクの生育及び開花状況. 2025. 令和7年鳥取県生物学会 (共同)
・ウコギ科カクレミノにおけるシュート構造と葉形質の光環境への応答. 2019. 日本生態学会, 第66回大会 (共同)

■**所属学会** 日本生態学会, 種生物学会, 日本森林科学会

■**取得学位** 博士 (地球環境科学/北海道大学)

略歴

1992年3月 宇都宮大学農学部卒業
1992年4月 (株)カーター・アート環境計画 (現 (株)環境・グリーンエンジニア)
2002年9月 北海道大学大学院地球環境科学研究科博士後期課程修了
2004年10月 金沢大学地域連携推進センター研究員 (～2015年3月)
2006年4月 金沢大学環日本海域研究センター研究員 (～2016年3月)
2007年4月 石川県立総合看護専門学校非常勤講師 (～2014年9月)
2013年10月 石川工業高等専門学校非常勤講師 (～2015年3月)
2015年4月 遊学館高等学校講師 (～2016年3月)
2016年4月 公立鳥取環境大学環境学部准教授/大学院環境経営研究科環境学専攻准教授
2024年4月 公立鳥取環境大学環境学部教授/大学院環境経営研究科環境学専攻教授

主な担当科目

植物学概論, 生態学基礎, 生態学概論: 自然環境保全概論 (分担), 鳥取学 (分担), 生物学実験 (分担), 自然環境保全実習・演習A及びB (分担)

＜研究内容の紹介・授業の特徴等＞

受粉を助ける昆虫に注目し, 植物の生態や進化を研究しています。授業では植物学・生態学関連の科目を通して, 野外での観察や研究事例をもとに, 生物多様性のしくみと保全について一緒に考えます。

研究活動等

プロフィール

研究活動等

プロフィール

主な担当科目

主な担当科目

研究キーワード 都市居住, 人間居住, 職住併用住宅, 都市保全, 生活交流空間・場所

張 漢賢

CHONG, Hon Shyan

教授

所属…環境学部 環境学科 大学院 環境経営研究科 環境学専攻

shyan@kankyo-u.ac.jp

■**専門分野** 都市計画学, 都市生活空間計画, 人間居住論
現在の研究テーマ

・持続的な都市居住を可能にする都市空間, 市街地の形成・管理手法
・アジア・ヨーロッパの都市型住宅 (ショップハウス, タウンハウス) の形成と保全
・都市・まちの「居場所」または「サード・プレイス」について

論文

・「創造性発揮を動機づけるサードプレイス」(共著), 2024, 日本デザイン学会2024年度第5支部発表会概要集
・「Study on the Small Ritual Facilities on the Common Space in Southeast Asia」(共著), 2024, 14th ISAIA アジアの建築交流国際シンポジウム
・「アジア都市のショップハウスに関する研究 その10. マレーシア・イポー市におけるショップハウス市街地2」(共著), 2023, 日本建築学会大会学術梗概集
・「伝統的な居住様式に対する災害の被害・外部支援の影響—2018年ロンボク島地震の被災地バヤンを事例として」(共著), 2021, 日本建築学会計画系論文集第86巻第790号

■**受賞歴** 1994年9月 日本建築学会優秀修士論文賞

■**所属学会** 日本建築学会, 日本都市計画学会, 都市住宅学会

■**取得学位** 京都大学博士 (工学)

略歴

1992年3月 京都大学工学部 建築学第二学科卒業
1994年3月 京都大学大学院工学研究科 修士課程修了 (環境地球工学専攻 居住空間工学講座)
2000年11月 京都大学博士 (工学)
2001年4月 鳥取環境大学環境情報学部環境デザイン学科助手
2005年4月 鳥取環境大学環境情報学部環境デザイン学科助教授
2013年4月～ 鳥取環境大学環境学部環境学科教授・大学院情報学研究科環境情報学専攻教授
2018年4月 公立鳥取環境大学国際交流センター長 (～2022年3月)
2024年4月 公立鳥取環境大学環境学部長, 環境経営研究科副研究科長, 環境経営研究科環境学専攻長 (～2026年3月)

■**主な担当科目** 人間居住論, 都市居住計画, 途上国の都市発展

＜研究内容の紹介・授業の特徴等＞

都市居住の持続性・質向上に寄与する都市・建築の物理的空間, 空間の利用実態, 空間の形成・維持・管理に関連した文献・フィールドワークで体系的に学習し, 良質な空間の再現・創造する方法を研究します。



研究キーワード 耐震性能, 伝統技能, 伝統的構法, 木造建築, 防災

中治 弘行

NAKAJI, Hiroyuki

教授

所属…環境学部 環境学科 大学院 環境経営研究科 環境学専攻

URL <https://d4407.kankyo-u.ac.jp/>

Eメール nakaji@kankyo-u.ac.jp

■専門分野 木造住宅の耐震性能評価

現在の研究テーマ

- ・土塗り壁の耐震性能に関する研究
- ・伝統的構法木造住宅の耐震性能向上に関する研究
- ・木造建物と地震災害・防災

■著書

- ・伝統的構法のための木造耐震設計法: 石場建てを含む木造建築物の耐震設計・耐震補強マニュアル, 伝統的構法木造建築物設計マニュアル編集委員会, 2019, 学芸出版社
- ・高山市伝統構法木造建築物耐震マニュアル, 高山市伝統構法木造建築物耐震マニュアル作成検討委員会, 2014.

■論文

- ・柱仕口をピン接合にした土壁要素試験体による土壁のせん断試験法開発に関する研究, 共著, 日本建築学会技術報告集, 2025年6月
- ・EXPERIMENTS ON EFFECTIVENESS OF SEISMIC DAMPER REINFORCEMENT OF TRADITIONAL TIMBER FRAME, 共著(筆頭), Online Proceedings, World Conference on Earthquake Engineering, 2024年7月
- ・伝統的な木造軸組の制震ダンパー補強効果に与える気温の影響に関する実験研究, 共著(筆頭), 歴史都市防災論文集Vol.18, 2024年7月
- ・旧加悦町役場庁舎の耐震改修に関する調査研究報告: 令和の大修理, 共著, 京都歴史災害研究 22 pp.1-27, 2021年3月
- ・土塗り大壁真壁併用壁の復元力特性に関する研究, 共著, 日本建築学会中国支部研究報告集第43巻, 2020.
- ・束で分割された土塗り垂れ壁付大断面木造軸組の耐震性能評価実験, 共著(筆頭), 歴史都市防災論文集 Vol.12, pp.91-98, 2019.
- ・土塗り壁の耐力を用いた土塗り小壁の骨格曲線の再評価, 共著, 歴史都市防災論文集 Vol.12, pp.209 - 214, 2019.
- ・土塗り小壁付大断面木造軸組の耐震性能評価実験, 共著(筆頭), 日本建築学会中国支部研究報告集第42巻, 2019.
- ・垂れ壁と腰壁で分割された無開口土塗り壁の復元力特性, 共著(筆頭), 歴史都市防災論文集 Vol.12, pp.23-30, 2018.
- ・土塗り壁の耐力を用いた土塗り小壁の骨格曲線評価, 共著, 歴史都市防災論文集 Vol.12, pp.15-22, 2018.
- ・伝統的な土塗り壁の復元力特性に関する実験的研究, 共著, 日本建築学会中国支部研究報告集第41巻, 2018.

■所属学会 日本建築学会, 日本地震工学会

■取得学位 京都大学博士(工学)

■略歴

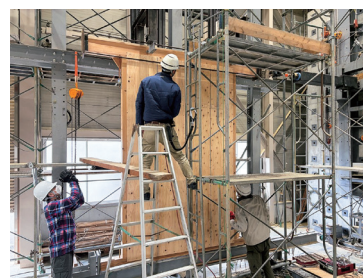
2016年4月 公立鳥取環境大学環境学部環境学科教授, 大学院環境経営研究科環境学専攻教授

SDGs関連項目



《研究内容の紹介・授業の特徴等》

木質構造の耐震性能に関する研究をやっています。集成材よりは製材(無垢材), 金物補強よりは伝統的構法を主な対象としています。



研究活動等

プロフィール



研究キーワード 廃棄物系バイオマス, 海面埋立地の早期安定化, バイオ炭, 生分解性ゴム, 炭酸化処理

金 相烈

KIM, SangYul

サステナビリティ研究所長
教授

所属…環境学部 環境学科 大学院 環境経営研究科 環境学専攻

■専門分野 廃棄物工学, 資源循環工学, 環境化学

現在の研究テーマ

- ・しいたけ形成菌のフタ材として生分解性ゴムの開発
- ・焼却残さの炭酸化処理による二酸化炭素の削減に関する研究
- ・海面埋立地の早期安定化に関する研究
- ・バイオ炭の土壌改良材としての活用に関する研究

■論文

- ・[Compartment model of aerobic and anaerobic biodegradation in a municipal solid waste landfill] (共著), 2007年, Waste Management & Research 第25巻
- 国際会議
- ・[Effect of carbonation treatment of incinerator ash on the stabilization of offshore landfill] (共著), 2018年, The 10th Asia-Pacific Landfill Symposium in 2018 (APLAS2018), Tokyo, Japan
- ・[A Study on Potential Improvement of Waste Manifest Systems For Establishing a Recycling-Based Society] (共著), 2013年, Proceedings of 2013 World Congress of International Solid Waste Association (ISWA), Vienna, Austria

■報告書

- ・「焼却排ガスの活用による都市ごみ焼却残渣の炭酸化処理による温室効果ガス削減及び海面埋立処分場の安定化促進に関する研究」(単独), 2018年2月, 廃棄物の適正処理・水処理に係る調査研究助成, 大阪湾広域臨海環境整備センター
- ・「産業廃棄物不適正処理事業における環境修復の取組から得られたもの」～四日市市大谷知・平津事業のリスクコミュニケーションを通じて～ (共著), 2016年3月, 三重県環境生活部 廃棄物対策局
- ・「東日本大震災による漂流ごみの移動経路把握による二次災害防止に関する研究」(共著), 2013年～2014年, 環境研究総合推進費, 環境省
- ・「バイオマスの利活用を基軸とした地域循環圏のモデル化と普及方策に関する研究」(共著), 2010年～2013年, 環境研究総合推進費, 環境省

■所属学会 日本廃棄物資源循環学会, 韓国廃棄物資源循環学会

■取得学位 博士(工学)(北海道大学)

■略歴

- 2000年9月 北海道大学大学院工学研究科資源環境工学専攻修士課程修了
- 2004年4月 オーストラリアウィン工科大学客員研究員
- 2006年10月 北海道大学大学院工学研究科特任助教
- 2013年4月 鳥取環境大学環境学部環境学科講師
- 2021年10月 公立鳥取環境大学環境学部環境学科/大学院環境経営研究科環境学専攻教授

■主な担当科目 3R工学, 廃棄物処理技術, 応用化学概論

SDGs関連項目



《研究内容の紹介・授業の特徴等》

廃棄物・資源循環分野を中心に、地域から国内外の環境課題につながる実践的研究を行っている。授業ではディベートや外部講師による特別講義を取り入れ、現場とのつながりを重視している。

研究活動等

プロフィール



研究キーワード 脱炭素, 再生可能エネルギー, 太陽光発電, バイオマス, 水素

松井 徹

准教授

MATSUI, Toru

所属…環境学部 環境学科 大学院 環境経営研究科 環境学専攻

matsui-t@kankyo-u.ac.jp

SDGs関連項目



- 専門分野 再生可能エネルギー, バイオマスエネルギー変換
現在の研究テーマ
・地域における再生可能エネルギー導入に関する研究
・太陽光発電の管理に関する研究

■著書

- ・「リサイクルバイオテクノロジーの最前線」(共著), 2013年, シーエムシー出版
- ・「海藻バイオ燃料」(共著), 2011年, シーエムシー出版
- ・「バイオガスの最新技術」(共著), 2008年, シーエムシー出版

■論文

- ・Hydrocarbon Recovery from Concentrated Algae Slurry via Thermal Pretreatment (共著), 2013年, Journal of the Japan Institute of Energy, Volume 92
- ・Removal of siloxane from digestion gas of sewage sludge (共著), 2010年, Bioresource Technology, Volume 101, Issue 1
- ・Methane fermentation of a mixture of seaweed and milk at a pilot-scale plant (共著), 2010年, Journal of Bioscience and Bioengineering, Volume 110

■講演等

- ・地域における再生可能エネルギー導入に関して, 2025年, 鳥取県環境推進企業協議会総会
- ・地域における環境・エネルギー, 2025年, 日本技術士会金属工学会定例会議

■所属学会 日本エネルギー学会, エネルギー・資源学会

■資格

技術士(環境部門, 衛生工学部門, 総合技術監理部門, 資源工学部門, 上下水道部門, 農業部門, 経営工学部門, 生物工学部門), 環境マネジメントシステム審査員補

《研究内容の紹介・授業の特徴等》

再生可能エネルギーの様々な研究開発や事業(メタン発酵, 太陽光発電管理, 導入FS調査等)を行ってきました。多くの実務経験をもとに, 地域への再生可能エネルギー導入に関する研究や授業を行っています。

研究活動等

プロフィール

■取得学位 博士(工学)(芝浦工業大学)

■略歴

- 1991年3月 東京工業大学工学部化学工学科卒業
- 1991年4月 東京ガス株式会社入社(～2025年3月)
- 2013年4月 一般財団法人エネルギー総合工学研究所出向(～2015年3月)
- 2023年4月 A&Tm株式会社出向(～2025年3月)
- 2025年4月 公立大学法人公立鳥取環境大学環境学部准教授, 大学院環境経営研究科環境学専攻准教授



研究キーワード ユニバーサルデザイン, 多様性, カームダウン空間, BPSD, 環境シグニファイア

老田 智美

准教授

OIDA, Tomomi

所属…環境学部 環境学科 大学院 環境経営研究科 環境学専攻

t-oida@kankyo-u.ac.jp

- 専門分野 建築計画, 福祉のまちづくり, 建築ユニバーサルデザイン
現在の研究テーマ

- ・都市および建築空間におけるユニバーサルデザインの導入手法に関する研究
- ・感覚過敏をもつ学生に配慮した「居場所」としてのカームダウン空間に関する研究
- ・認知症高齢者の行動を支える環境シグニファイアの研究

■著書

- ・「心を癒やす環境デザイン - デンマーク・オランダの高齢者居住環境に学ぶ -」(共著), 2022年, 彰国社
- ・「ユニバーサルトイレ - 多様な利用者のための環境デザイン手法 -」(共著), 2017年, 彰国社

■論文

- ・「感覚過敏学生のカームダウンユニット利用前後におけるストレス回復度の変化- 感覚過敏に配慮した「居場所」の創出に関する研究 その8 -」(共著), 2026年, 『日本福祉のまちづくり学会第27回全国大会概要集』
- ・「視覚障がい者の避難行動と福祉避難所の認識に関する研究」(共著), 2026年, 『日本建築学会大会学術講演梗概集』
- ・「男女共用トイレに対する兄弟姉妹の有無別学生の利用者意識 -公共トイレの男女共用化の可能性に関する研究-」(共著), 2023年, 『日本建築学会大会学術講演梗概集』
- ・「移動方法からみた視覚障害者の施設内トイレ利用実態 -視覚障害者のユニバーサルデザイントイレ環境に関する研究」(共著), 2021年, 『日本建築学会大会学術講演梗概集』
- ・「Behavior changes in elderly individuals with dementia and effects before and after introducing calm down space using reminiscence」(共著), 2019年, 『The 7rd International conference in BANGKOK, International Association for Universal Design』

■設計・監修等

- ・イオンレクタウン/ユニバーサルデザイン監修, トイレ・ベビー休憩室/設計(埼玉県)
- ・イオンモール天津津南/ユニバーサルデザイン監修(中華人民共和国)
- ・神戸空港旅客ターミナル UDサイン/サインデザイン, 設計, 設計監理(兵庫県)
- ・イオンモールユニバーサルデザインガイドライン作成

■所属学会 日本建築学会, 日本福祉のまちづくり学会

■資格 一級建築士

■取得学位 博士(工学)(東京大学)

■略歴

2024年4月 公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授

■主な担当科目 エコハウス計画, 居住インテリア計画, 福祉住環境計画

《研究内容の紹介・授業の特徴等》

人生100年時代の今, 仮に病気や事故でからだに不自由になっても, 仕事をし, 余暇を楽しむ「かわらない生活」を送ること, そしてそれを可能にする「住み続けることができる環境」が必要です。家族のこと, 未来の自分のことを想像しながら一緒に研究しませんか。

研究活動等

プロフィール



研究キーワード 緑地環境, グリーンインフラ, 社会・生態・テクノロジー系, レジリエンス, 気候変動

加藤 禎久

准教授

KATO, Sadahisa

所属…環境学部 環境学科 大学院 環境経営研究科 環境学専攻

- 専門分野 緑地計画学, エコロジカル・プランニング, 自然に基づく解決策 (NbS)
現在の研究テーマ
・自然の恵みを土地利用計画や社会資本整備に活用するグリーンインフラに関する研究
・インドネシア・バリ島における伝統的緑地の統合的機能評価に関する研究
・鳥取県若桜町・八頭町の農山村地域の持続可能性に関する未来シナリオ分析研究

■著書

- ・「Green Infrastructure Planning for Asian Cities: The Planning Strategies, Guidelines, and Recommendations」, 2021年, 『Urban Biodiversity and Ecological Design for Sustainable Cities』, Springer
・『決定版! グリーンインフラ』(共編著), 2017年, 日経BP社

■論文

- ・「Landscape metric sensitivity to grain size in rural Japan」(共著・筆頭), 2024年, 『Landscape and Ecological Engineering』20: 285-298, DOI: 10.1007/s11355-024-00611-y
・「Human Flow Dataset Reveals Changes in Citizens' Outing Behaviors including Greenspace Visits before and during the First Wave of the COVID-19 Pandemic in Kanazawa, Japan」(共著・責任), 2022年, 『International Journal of Environmental Research and Public Health』19(14): 8728, DOI: 10.3390/ijerph19148728
・「Land use management recommendations for reducing the risk of downstream flooding based on a land use change analysis and the concept of ecosystem-based disaster risk reduction」(共著・筆頭), 2021年, 『Journal of Environmental Management』, DOI: 10.1016/j.jenvman.2021.112341

■所属学会

国際景観生態学会 (IALE), 日本造園学会, 日本景観生態学会, 日本都市計画学会, 日本建築学会

■取得学位 Ph.D. (Ecological Planning) (University of Massachusetts Amherst, USA)

■略歴

- 1996年5月 米国ミシガン大学自然資源・環境学部卒業
2003年4月 米国ミシガン大学大学院自然資源・環境学部実務家養成修士課程修了, MLA
2010年5月 米国マサチューセッツ大学大学院景観建築・地域計画学科博士課程修了, Ph.D.
2011年9月 茨城大学地球変動適応科学研究機関 (ICAS) 共同研究員, IPCCチャプターサイエンティスト
2016年4月 岡山大学グローバル人材育成院准教授
2021年4月 公立鳥取環境大学環境学部准教授
2021年10月 公立鳥取環境大学環境経営研究科環境学専攻准教授
2023年10月 鳥取大学大学院連合農学研究科 指導教員資格者 (D合)

■主な担当科目 グリーンデザイン, 都市の自然環境形成, 景観計画と保全管理

✉ s-kato@kankyo-u.ac.jp

URL https://researchmap.jp/sada_kato

《先生からの一言》

洪水や土砂崩れなどの被害を抑え, レジリエントな社会を構築するには, 従来の土木インフラを補完する形で自然の恵みを生かしたグリーンインフラの活用が求められています。一緒に気候変動に適応した緑地・ランドスケープ計画を考えてみませんか。



岡山市水道局の壁面緑化と緑化駐車場にて

研究活動等

プロフィール

研究活動等

プロフィール

研究キーワード 新規化学物質, 質量分析, ジオミクス

山本 敦史

准教授

YAMAMOTO, Atsushi

所属…環境学部 環境学科 大学院 環境経営研究科 環境学専攻

■専門分野 分析化学, 質量分析

現在の研究テーマ

- ・環境中残留性汚染物質の分析, 生体影響評価
・暮らしに身近な化学物質のリスク評価
・食品中の栄養成分等の探索

■論文

- ・PFAS ノンターゲット分析 環境化学, 36 巻 s27-s33 (2026), doi: 10.5985/jec.36.s27
2025 年以前含めた全体は以下に掲載 https://researchmap.jp/TO_MU_GO_U

■教科書・学術図書

- ・PFASの規制動向と対応技術 (共著) (技術情報協会: 2024 年)
・質量分析活用スタンダード (共著) (羊土社: 2023 年)
・機器分析ハンドブック 1 有機・分光分析編 (共著) (化学同人: 2020 年)

■受賞歴

2017年奨励賞 (日本質量分析学会), 2024 年学術奨励賞 (一般社団法人あにまるすまいる)

■所属学会

日本環境化学会, アメリカ化学会, 日本質量分析学会, 日本食品衛生学会, 日本分析化学会

■資格 鳥取大学大学院連合農学研究科主指導教員資格

■取得学位 博士 (工学) (関西大学)

■略歴

- 1993年3月 鳥取県立鳥取西高等学校卒業
1997年3月 九州大学理学部化学科卒業
1999年3月 九州大学大学院理学研究科化学専攻修了
2000年4月 大阪市立環境科学研究所
2014年3月 関西大学大学院理工学研究科博士課程修了, 博士 (工学)
2018年4月 公立鳥取環境大学環境学部環境学科 大学院環境経営研究科 環境学専攻 准教授
2023年8月 大阪大学大学院理学研究科附属フォアフロント研究センター招へい准教授

URL <https://pfos.jp>

✉ atyamamo@kankyo-u.ac.jp

SDGs関連項目



《先生からの一言》

皆さん「健全な物質循環」という言葉を耳にしたことがありますか? 環境分野において近年重視されているキーワードです。一緒に環境や暮らしの中で起こっている様々な物質の動きを調べてみませんか。普段の景色が違って見えてくるでしょう。



研究キーワード 下水処理, 嫌気性消化, メタン発酵, 汚泥有効利用, 高度処理

戸村 丈仁

准教授

TOGARI, Taketo

所属…環境学部 環境学科 大学院 環境経営研究科 環境学専攻

E-Mail t-togari@kankyo-u.ac.jp

■専門分野 下水道工学, 水処理工学, バイオマス利活用 (汚泥処理), 水環境保全
現在の研究テーマ

- ・地域で発生する有機性廃棄物のメタン発酵
- ・下水汚泥へのマイクロ波照射前処理によるメタン発酵高効率化
- ・メタン発酵を活用した下水処理場の大規模被災時エネルギー供給拠点化

■国際会議

- ・「Improving Efficiency of Anaerobic Digestion Using Microwave Irradiation」(共著) (筆頭), 2025年10月, 10th IWA Aspire Conference and Water New Zealand Conference & Expo
- ・「Improvement of Sewage Sludge Fertilizer Quality through Co-Digestion with Tofu Residue」(共著) (筆頭), 2025年9月, 12th International Water Association Symposium on Waste management Problems in Agro-Industries
- ・「Energy and silicon recovery by anaerobic co-digestion of sewage sludge and rice straw」(共著) (筆頭), 2024年6月, 18th IWA World Conference on Anaerobic Digestion

■論文

- ・「Assessment of Surface Water Quality of Huai Luang River in Udon Thani, Thailand, Using the Water Quality Index」(共著), 2023年12月, International Journal of Environmental Science and Development 14(6) 381-387
- ・「Ammonia tolerance and microbial community in thermophilic co-digestion of sewage sludge initiated with lignocellulosic biomass」(共著), 2023年5月, Bioresource Technology 376 128834-128834
- ・「下水汚泥と稲わらの高温混合メタン発酵によるエネルギー回収と残渣の水田への利用可能性」(共著) (筆頭), 2020年12月, 土木学会論文集G (環境) Vol.76(No.7), III 481-III 490
- ・「A review of sewage sludge digestion technologies in Japan: from technological evolution to global perspectives」(共著), 2025年 6月, Journal of Material Cycles and Waste Management

■受賞歴 令和元年第56回環境工学研究フォーラム論文賞, 令和3年日本下水道協会優秀論文賞

■所属学会 土木学会, 日本水環境学会, 日本下水道協会, International Water Association (IWA)

■取得学位 博士 (工学) (金沢大学)

■略歴

- 2001年3月 金沢大学工学部土木建設工学科 卒業
- 2003年3月 金沢大学大学院自然科学研究科 博士前期課程 修了
- 2003年4月 石川県庁入庁
- 2017年4月 公立鳥取環境大学環境学部 講師
- 2019年4月 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻 准教授

■主な担当科目 水環境工学, 水処理技術, 水環境技術特論, 循環型社会形成実習演習A

SDGs関連項目



《先生からの一言》

皆さんの家のトイレ, キッチン, お風呂などからの生活排水は, 下水処理場, 浄化槽などの処理施設で処理され, 一定の水質を確保した上で, 公共用水域に排出されます。水質保全, 水処理, 汚泥処理の仕組みについて一緒に学びましょう。



研究活動等

プロフィール



研究キーワード 地理学, ジオパーク

柚洞 一央

准教授

YUHORA, Kazuhiro

所属…環境学部 環境学科 大学院 環境経営研究科 環境学専攻

■専門分野 地理学, ジオパーク, ジオツーリズム, 地域づくり

現在の研究テーマ

- ・地球と人が共存できる社会の実現
- ・主体的・対話的で深い学び

■著書

- ・「中部・近畿・四国のジオパーク (シリーズ大地の公園)」(共著), 2015年, 古今書院

■論文

- ・「花蜜資源」を求めて:-アルゼンチンにおける日系人養蜂業者の移動と経営戦略-, 2007年, 『地理学論集』82号
- ・「日本の養蜂業における移動空間の狭域化と生産形態の多様化」, 2006年, 『地理学評論』79(13)

■受賞歴 2008年 学会賞(奨励賞)日本地理学会

■所属学会 日本地理学会, 人文地理学会, 北海道地理学会

■資格 中学校教諭専修免許状 (社会), 高等学校教諭専修免許状 (地理歴史)

■取得学位 博士 (文学) 北海道大学, 修士 (教育学) 筑波大学

■略歴

- 2001年3月 琉球大学法文学部人文学科卒業
- 2004年3月 筑波大学大学院教育研究科修了
- 2011年3月 北海道大学大学院文学研究科修了
- 2011年4月～ 室戸ジオパーク推進協議会地理専門員
- 2015年4月～ 2018年3月 徳山大学経済学部准教授
- 2015年4月～ 高知工科大学非常勤講師 (地誌学)
- 2017年4月～ 2026年3月 山口大学人文学部非常勤講師 (人文地理学・地誌学)
- 2018年4月～ 公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授
- 2018年7月～ 公立鳥取環境大学環境経営研究科環境学専攻准教授

《先生からの一言》

・「普通」ってなんでしょう。場所が変われば, 「普通」 も変わります。場所の比較から, 地球の気持ち, 人の気持ちを考えています。プラタモリのように, 地域を描く力を身につけませんか?

・毎年, 日本各地のジオパークで学生たちと現地観察をしています。現地集合です。行ったことない場所は1で行けるようになって欲しいです。



研究活動等

プロフィール



研究キーワード キノコ, 木材腐朽菌, 加硫ゴム, ゴム生分解, 資源変換

佐藤 伸

准教授

SATO, Shin

所属…環境学部 環境学科 大学院 環境経営研究科 環境学専攻

✉ s-sato@kankyo-u.ac.jp

- 専門分野 応用微生物学, バイオマス変換化学
現在の研究テーマ
・キノコによる加硫天然ゴムの分解, および脱硫メカニズムの解明
・キノコを使った加硫ゴム再資源化プロセスの開発

■特許

- ・軟化ゴムの製造方法2 (特願2022-39379) 佐藤 伸
- ・軟化ゴムの製造方法 (特願2021-163025) 佐藤 伸
- ・ゴムの分離方法 (特願2021-001125) 佐藤 伸, 濱田賢作

■総説

- ・「ゴム分解キノコの発見とそれをつかったゴムの再資源化」2022年, 『きのこだより』, 第45巻 36-41
- ・「ゴム分解キノコの発見とそれをつかった加硫ゴムの再資源化」2022年, 『ポリマー TECH』, 第15巻 33-36
- ・「ゴム分解キノコの発見とそれをつかった加硫ゴムの再資源化」2022年, 『日本ゴム協会誌』, 第95巻, 1号

■研究発表

- ・「木材腐朽菌Trichaptum種による加硫天然ゴムシートの劣化分解は炭酸カルシウムフィラーの脱離と関連する」環境バイオテクノロジー学会 (東京) 2022年11月
- ・[Biodeterioration of natural rubber sheets: Removal of calcium carbonate filler may be a trigger for the degradation by wood decay fungi, Trichaptum abietinum and Trichaptum bifforme] ISBP2022 (Sion, Switzerland) 2022年9月
- ・[Biodeterioration of natural rubber sheets: Removal of calcium carbonate filler may be a trigger for the degradation by wood decay fungi] RubberCon2022 (Kuala Lumpur, Malaysia) 2022年9月
- ・「X線マイクロCTを用いた木材腐朽菌Trichaptum abietinumによる加硫ゴム分解挙動の微細構造解析」日本ゴム協会年次大会 (東京・オンライン) 2022年5月

■査読付き投稿論文

- ・[Deterioration of vulcanized natural rubber sheets is associated with removal of calcium carbonate filler by wood-decay fungi, Trichaptum abietinum and Trichaptum bifforme] S. Sato H. K. Tien, W. Inamori, F. Yoneyama, A. Mase. 2023 [Fungal Genomics and Biology], 13(4), 1-6
- ・「X線マイクロCTを用いた木材腐朽菌Trichaptum abietinumによる加硫天然ゴム分解過程の微細構造解析」佐藤伸, 濱田賢作, 武田佳彦『日本ゴム協会誌』2022 第95巻3号, 77-79

■科学研究費補助金

- ・JSPS 2023年度基盤研究 (C) 「ゴム分解キノコの物性低下因子の特定とそれを用いたゴムの再資源化」(2023 ~ 2025)

■所属学会 日本木材学会, 日本農芸化学会, 高分子学会, 日本生物工学会, 日本ゴム協会

■取得学位 農学博士 (京都大学)

■略歴

2013年4月 鳥取環境大学環境学部環境学科准教授

研究活動等

プロフィール

《研究内容の紹介・授業の特徴等》

鳥取県内で加硫ゴムを分解するきのこを発見しました。ゴムを分解するきのこの機能は加硫したゴムのリサイクルに役立つのではないかと企業からも注目されており, 環境負荷の少ない微生物の機能を活かした加硫ゴムの再資源化技術の開発に取り組んでいます。



研究キーワード 土壌侵食, 土壌劣化, 物質循環, 集水域, 地理情報システム

角野 貴信

准教授

KADONO, Atsunobu

所属…環境学部 環境学科 大学院 環境経営研究科 環境学専攻

■専門分野 土壌学, 生物地球化学

現在の研究テーマ

- ・水系に移動した土壌物質を利用して流域内の生態系が受けた変化を予測する研究
- ・土壌有機物の分解過程をモデル化することにより陸域生態系の炭素動態を明らかにする研究

URL <https://sites.google.com/site/kadonoslab/http://yumenavi.info/lecture.aspx?GNKCD=g007308>

✉ kadono@kankyo-u.ac.jp

■著書

- ・水・土壌の基礎知識とツーリズム (共著 (第2章を単著)) 「自然観光の科学」朝倉書店, 12-19, 2025
- ・持続可能な社会における土壌資源管理とその指標化 (共著 (06章を単著)) 「SDGsを考える」ナカニシヤ出版, pp. 99-111, 2020
- ・10.4 土壌劣化と砂漠化 (共著 (10.4節を単著)) 「改訂 土壌学概論」朝倉書店, pp. 167-173, 2020
- ・03土の黒さから考える自然資源の保全と利用の適切なバランス (共著 (03章を単著)) 公立鳥取環境大学環境学部「こちら公立鳥取環境大学環境学部です!」今井出版, pp. 28-34, 2019

■論文・報告

- ・有機質資材を施用した山田錦栽培田における玄米収量と土壌の関係 (共著) 地域イノベーション研究 10, 12-20, 2023
- ・有機質資材連用年数が水稻による窒素吸収量及び水田土壌中の窒素含量に与える影響 (共著) 地域イノベーション研究 9, 11-16, 2022
- ・有機質資材の投入が酒造好適米の生産環境に与える影響 (共著) 地域イノベーション研究 8, 22-26, 2021

■所属学会 日本土壌肥料学会, 日本ペドロロジー学会, 日本地理学会, 日本水環境学会

■取得学位 博士 (農学) (京都大学)

■略歴

2008年3月 京都大学農学研究科博士後期課程修了, 博士 (農学)
2008年4月 日本原子力研究開発機構博士研究員
2009年1月 首都大学東京都市環境科学研究科助教
2010年8月 米国オハイオ州立大学博士研究員
2011年9月 鳥取環境大学人間形成教育センター講師
2016年4月 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科准教授

■主な担当科目 基礎土壌学, 環境土壌学, 水環境学, 化学実験

《先生からの一言》

土壌がその母材である岩石などから生成するスピードに比べ, 人が利用して劣化させてしまう速度があまりにも速く, そのアンバランスが問題になっています。いかにすればそのバランスを回復し, 維持し続けられるのか, 一緒に考えてみませんか。

研究活動等

プロフィール



研究キーワード 衛星画像, 画像処理, 機械学習, 沿岸生態系, 浅海域海底地形

佐川 龍之

准教授

SAGAWA, Tatsuyuki

所属…環境学部 環境学科 大学院 環境経営研究科 環境学専攻

URL <https://sagawalab.wixsite.com/remotesensing>

- 専門分野 リモートセンシング, 人工知能, 画像処理
現在の研究テーマ
・衛星画像を用いた浅海域海底地形推定技術に関する研究
・沿岸環境のモニタリングに関する研究
・リモートセンシングデータの農業分野への活用に関する研究

著書

- ・「リモートセンシング事典」(共著), 2022年, 丸善出版.

論文

- ・「多時期の衛星画像と機械学習を用いた浅海域の水深推定技術の高度化」(単著), 2024年, 水路, Vol. 53, No. 2, pp. 18-23.
・「Mapping aquaculture rafts from a GeoEye-1 image using U-Net」(共著), 2022年, Proceedings of the 2022 Asian Conference on Remote Sensing, ACRS22_37.
・「耕作地におけるSGLIとMODIS地表面温度プロダクトの相互利用の検討」(共著), 2021年, 日本リモートセンシング学会誌, Vol. 41, No. 5, pp.603-610.
・「Practical mapping methods of seagrass beds by satellite remote sensing and ground truthing」(共著), 2020年, Coastal marine science, Vol. 43 No. 1, pp. 1-25.
・「WorldView衛星画像を用いた浅海域における汎用水深推定式に関する研究」(共著), 2019年, 日本リモートセンシング学会誌, Vol. 39, No. 2, pp.112-122.
・「Satellite derived bathymetry using machine learning and multi-temporal satellite images」(共著), 2019年, Remote Sensing, Vol. 11, No. 1155, pp. 1-19.

受賞歴

2018年 内閣府主催第3回宇宙開発利用大賞 環境大臣賞

2024年 一般財団法人日本水路協会 令和5年度水路技術奨励賞

■所属学会 日本リモートセンシング学会, 日本写真測量学会, 日仏海洋学会

■取得学位 環境学博士(東京大学)

略歴

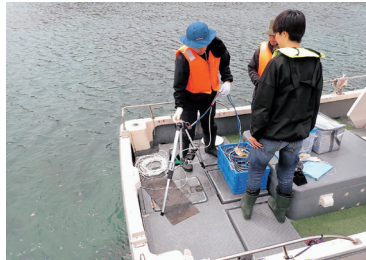
2008年9月 東京大学大学院博士課程新領域創成科学研究科自然環境学専攻修了, 環境学博士
2012年2月 一般財団法人リモート・センシング技術センター研究開発部研究員
2019年4月 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構地球観測研究センター主任研究開発員
2022年4月 公立鳥取環境大学人間形成教育センター准教授
2023年4月 公立鳥取環境大学環境学部環境学科准教授

SDGs関連項目



《研究内容の紹介・授業の特徴等》

衛星画像やドローンなどを用いた自然環境のモニタリング技術等について研究しています。解析結果の検証のために必要に応じて野外調査も実施します。授業では、地理情報システムの使い方や衛星画像の解析方法、AIの活用などについて、演習も交えた講義で知識と実践力を身につけてもらいます。



調査船からの海中の観測

研究活動等

プロフィール



研究キーワード オルタナティブ教育, 不登校支援, 官民協働, フリースクール, オルタナティブスクール

竹中 烈

准教授

TAKENAKA, Takeshi

所属…環境学部 環境学科

E-Mail takenaka@kankyo-u.ac.jp

専門分野 教育社会学

現在の研究テーマ

- ・官民協働による学校外の学びの質保証
・学校外の学びの多様性
・フリースクールの運営・教育実践

著書

- ・「不登校の子どもとフリースクール 持続可能な居場所づくりのために」(共著), 2022年, 晃洋書房
・「哲学する教育原理」(共著), 2017年, 保育出版社

論文

- ・「フリースクールにおける学びの独自性と質保証のジレンマ行政による助成制度が多様な学びの機会の創出に与える影響—」, 2025年, 『教育研究』第15号
・「官民協働による不登校支援の可能性と課題—地方自治体Xにおける中間支援組織の設立やその展開に着目して—」, 2024年, 『教育研究』第14号
・「拡張する教育空間における民間事業者の位置—セーフティネットとしてのフリースクールに着目して」(共著), 2022年, 『日本教育政策学会年報』第29号
・「ソーシャルベンチャーによる官民協働の不登校生の居場所づくりの特質—<界>における関与者間の関係構造の変容に着目して—」, 2021年, 『教育支援協働学研究』vol.3
・「フリースクールにおけるスタッフ・子ども・親の『感情統制の三極関係』—『FS的自己』としての親を起点として—」, 2016年, 『人間関係学研究』第21巻第1号

所属学会

日本教育社会学会, 日本教育学会, 関西社会学会, 日本教育政策学会, 中部教育学会

■取得学位 修士(教育学)(京都大学)

略歴

2009年3月 京都大学大学院 教育学研究科 教育社会学専攻博士前期課程修了
2011年3月 京都大学大学院 教育学研究科 教育社会学専攻博士後期課程指導認定
2014年3月 京都大学大学院 教育学研究科 教育社会学専攻博士後期課程単位取得満期退学
2014年4月 京都大学教育学研究科 研修員
2015年4月 愛知文教大学人文学部 専任講師
2020年4月 愛知文教大学人文学部 准教授
2026年4月 公立鳥取環境大学 環境学部環境学科 准教授

SDGs関連項目



《研究内容の紹介・授業の特徴等》

近年の教育機会確保法による学びの多様化や人口減少社会における地域創生に伴い増加してきている行政と民間団体の協働による新たな教育空間の創出事例に関心をもっています。不登校児童生徒の居場所として機能するフリースクールにおける地方教育行政との官民協働事例を体系的に分析し、学校外の学びが行政制度に組み込まれることで、学校・行政・民間団体・家庭の関係がどのように再編されるのかを解明していきたいと考えています。

研究活動等

プロフィール



研究キーワード サンゴ, 進化, 化石, 南極, 古環境

徳田 悠希

准教授

TOKUDA, Yuki

所属…環境学部 環境学科 大学院 環境経営研究科 環境学専攻

■専門分野 古生物学, 深海生物学

現在の研究テーマ

- ・南極深海サンゴによる産業革命以降の地球環境変動の復元
- ・南西諸島海域における深海サンゴの多様性と生物地理
- ・新生界から産出する深海サンゴ化石の系統進化

■代表論文

- ・Tokuda Y., Yamada N., Endo H., Sentoku A., Ezaki Y., Hayashi H., Matsuura Y., and Kawano S. (2025) Azooxanthellate colonial corals from the Miocene Omori Formation, Shimane, Japan. Paleontological Research, 29, 108-121.
- ・Tokuda, Y., Kawakita S., Sentoku A., Ezaki Y., Tanaka N., Nagasawa S., Nakaguchi K., Yamaguchi S., Kondo Y., and Ohtsuka S. (2024) Influence of sipunculan (peanut worm) activity on orifice formation in scleractinian *Heterocyathus* for adaptation to soft substrates. Scientific Reports, 14, 9817.
- ・Sentoku, A., Shimizu, K., Naka, T., and Tokuda, Y. (2022) Dimorphic life cycle through transverse division in burrowing hard coral *Deltocyathoides orientalis*. Scientific Reports, 12, 9359.
- ・Tokuda, Y. and Ezaki, Y. (2020) Microskeletal structures suggest taxonomic distinction between subgenera of azooxanthellate scleractinian *Flabellum*. Paleontological Research, 24, 261-275.
- ・Tokuda, Y., Haraguchi, H. and Ezaki, Y. (2017) First real-time observation of transverse division in azooxanthellate scleractinian corals. Scientific Reports, 7, 41762.
- ・Sentoku, A., Tokuda, Y. and Ezaki, Y. (2016) Burrowing hard corals occurring on the sea floor since 80 million years ago. Scientific Reports, 6, 24355.

■受賞歴

- 日本古生物学会 論文賞 (2022年)
- 日本地質学会 優秀ポスター賞 (2009年・2012年・2017年・2018年)
- 日本古生物学会 優秀ポスター賞 (2009年)

■所属学会 日本古生物学会, 日本地球惑星科学連合, 日本サンゴ礁学会, 鳥取地学会

■取得学位 博士 (理学) (大阪市立大学)

■略歴

- 2010年4月 鳥取県立博物館 学芸員
- 2016年4月 公立鳥取環境大学環境学部環境学科 講師
- 2020年10月 公立鳥取環境大学環境学部環境学科 准教授
- 第61次及び第65次南極地域観測隊員

■主な担当科目 地学概論, 環境地質学, 地学実験

URL <https://researchmap.jp/tokuda-y>

SDGs関連項目



＜研究内容の紹介・授業の特徴等＞

サンゴから地球の過去・現在・未来を読み解きます！

フィールドワークと最新鋭の分析手法を組み合わせ、深海や冷たい海に生きるサンゴを研究しています。最近では、南極のサンゴを用いて、地球温暖化が南極氷床や海洋に及ぼす影響を読み解いています。



研究室の活動風景

研究活動等

プロフィール



研究キーワード グループ・ダイナミックス, エネルギーコミュニケーション, 地域脱炭素, 環境教育, 環境配慮行動

甲田 紫乃

准教授

KODA, Shino

所属…環境学部 環境学科 大学院 環境経営研究科 環境学専攻

■専門分野 エネルギー科学, グループ・ダイナミックス, 環境社会学・社会心理学

現在の研究テーマ

- ・地域脱炭素・エネルギー自立に関する社会的受容と合意形成
- ・環境教育・エネルギー教育と地域づくり・サステナブルツーリズムと地域活性化

■著書

- ・「地域の未来を変える空き家活用一鹿野のまちづくり20年の挑戦」(分担執筆), 2021年, ナカニシヤ出版
- ・「SDGsを考える一歴史・環境・経営の視点からみた持続可能な社会」(共編著), 2020年, ナカニシヤ出版
- ・「こちら公立鳥取環境大学環境学部です!」(分担執筆), 2019年, 今井出版
- ・「21世紀国際社会を考える一多層的な世界を読み解く38章」(分担執筆), 2017年, 旬報社

■論文

- ・Koda, S. (2016). Horizontal Relationship and Environmental Communication: A Case Study on Collaborative Activities between SPES and Local Residents in Austria, The International Journal of Environmental Sustainability, Volume 12, Issue 2, pp.17-31.
- ・甲田紫乃. 「コンビニエンスストアにおける資源浪費の構造一参与観察に基づく短報」, 2012年, 集団力学, 第29巻, pp. 87-103.
- ・Koda, S. (2012). Theoretical Approach to the Collaborative Environmental Activities: Household Waste Disposal towards Environmentally Friendly Daily Life, International Journal of Humanities and Social Science, vol.2, No.6, pp.104-110.

■研究発表の抜粋

- ・Koda, S. (2021). Forest Environmental Education Contributing to Community Revitalization: A Collaborative Practice Towards the SDGs Based on An Activity Theoretical Approach, Going Green EcoDesign 2021, December 1-3, 2021, Tokyo, Japan. 3
- ・Persuading People to Become Greener Through Collaborative Activities, Going Green CARE INNOVATION 2018, Vienna, Austria, 2018

■所属学会

日本グループ・ダイナミックス学会, 日本エネルギー学会, 土木学会, 日本環境教育学会, 環境社会学会

■資格 日本語教育能力検定試験合格

■取得学位 博士 (エネルギー科学) (京都大学)

■略歴

- 2018年4月 公立鳥取環境大学環境学部環境学科講師
- 2018年7月 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻講師
- 2023年4月～ 公立鳥取環境大学環境学部環境学科/大学院環境経営研究科環境学専攻 准教授

■主な担当科目 環境政策論, 大気汚染防止, 環境アセスメント概論, 環境教育論, 衛生工学特論

URL <http://jp.shinokoda.com/>E-mail s-koda@kankyo-u.ac.jp

＜研究内容の紹介・授業の特徴等＞

地域脱炭素や環境配慮行動を、技術だけでなく人とコミュニティの関係から研究しています。授業では身近な事例を用い、環境問題を制度・技術・生活のつながり、関係性から考えます。

研究活動等

プロフィール



研究キーワード メソ気象学, 気象観測, 生気象学, 気象防災, 自然地理学

重田 祥範

准教授

SHIGETA, Yoshinori

所属…環境学部 環境学科 大学院 環境経営研究科 環境学専攻

shigeta@kankyo-u.ac.jp

■専門分野 気象学, 気象防災学, 自然地理学
現在の研究テーマ

- ・都市域における大気環境と熱中症リスクの評価
- ・盆地霧の発生・消滅メカニズムの解明と予測
- ・気象情報の「見える化」と防災への活用

論文

- ・Relationship between long-term changes in the number of fog days and SPM concentration across Japan Yuka IMAEDA, Yoshinori SHIGETA Journal of Environmental Information Science Vol.2025, No.2 51-59.
- ・Spatial Characteristics of Urban and Suburban Thermal Environments Based on Wet-Bulb Globe Temperature in an Inland Basin City Yoshinori SHIGETA, Yuki OGIHARA Journal of Environmental Information Science Vol.2025, No.2 60-73.
- ・京都府福知山盆地で発生する霧の季節変化と気温変化 今枝 侑香, 重田 祥範 環境情報科学学術研究論文集 39 266-271 2025.
- ・猛暑期の鳥取県で観測された気温と海岸距離の関係性 重田 祥範, 大谷 一貴 環境情報科学学術研究論文集 39 272-277 2025.
- ・霧を伴う局地風「肱川あらし」のAI予報モデルの開発 工藤 陽花, 箱崎 又一, 大橋 唯太, 重田 祥範 日本気象学会, 天気 72(9) 431-443 2025.

招待講演

- ・雲の川が流れる朝ー円山川あらしの正体ー 重田 祥範 山陰海岸ジオパークの気象・地形・日本海のかかわりを知るための講演会, 2026年3月

■所属学会 日本気象学会, 日本地理学会, 日本生気象学会, 日本風工学会, 日本大気電気学会

■資格 中学校教諭専修免許状(理科), 高等学校教諭専修免許状(理科), 健康気象アドバイザー

■取得学位 博士(理学)(岡山大学)

略歴

- 2011年3月 岡山大学大学院自然科学研究科博士後期課程 修了
- 2011年4月 立正大学地球環境科学部環境システム学科 助教(～2015年3月)
- 2015年4月 公立鳥取環境大学環境学部環境学科 講師(～2017年3月)
- 2017年4月 公立鳥取環境大学環境学部環境学科 准教授
- 2017年4月 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻 准教授
- 2025年5月 JAXA(宇宙航空研究開発機構)航空技術部門 客員研究員

■主な担当科目 気象学概論, 地球システム学, バイオクリマ入門, 地学実験

《研究内容の紹介・授業の特徴等》

「なぜ雲海ができるのか」「なぜ局地的な豪雨が発生するのか」といった身近な現象を、観測やデータ解析を通して研究しています。授業では、天気と防災のつながりを楽しく学びながら、自然を科学的に読み解く力を身につけます。



気象観測機器の設置



上空の風を測る

研究活動等

プロフィール



研究キーワード ナレッジマネジメント, 有機農業, GIAHS, 地域資源管理

山口 創

准教授

YAMAGUCHI, So

所属…環境学部 環境学科 大学院 環境経営研究科 環境学専攻

so-yama@kankyo-u.ac.jp

■専門分野 農業経営学, 農村計画学, ナレッジマネジメント

現在の研究テーマ

- ・農業・農村におけるナレッジマネジメント理論の構築に関する研究
- ・伝統的農業システムの動的保全に関する研究

著書

- ・山口創(2018) 在来品種の特産化プロセスと活用に向けた方策ー丹波黒, 薦池大納言を事例にー, pp.83-93, 地域固有性の発現による農業・農村の創造(中塚雅也編著), 筑波書房.
- ・山口創(2016) 黒大豆栽培における知恵の継承と創造, pp.74-87, エシカルな農業(伊藤一幸編著), 誠文堂新光社.

論文

- ・伝統的農業システムにおける農法の変化に関する研究(共著), 2024, 農林業問題研究, 60(4), 150-158.
- ・消費者の農業や農作物に対する関心とCSA加入意向に関する研究(共著), 2023, 環境情報科学論文集, 37, 98-103.
- ・大山頂上の自然保全活動における人材確保の実態と課題に関する一考察(共著), 2021, 環境情報科学学術研究論文集, 35, 292-297.
- ・農村地域の文化的知識の継承活動における動機づけに関する研究ー鳥取県鳥取市S地区における民話の継承活動に着目してー(単著), 2021, 農業経済研究93(1), pp.77-82.
- ・住民主体の自然資源の保全活動における知識管理の実態と関係主体の役割ーあびき湿原の保全活動を事例としてー(単著), 2017, 環境情報科学学術研究論文集31, pp.71-76.

所属学会

農村計画学会, 地域農林経済学会, 日本農業経済学会, 環境情報科学センター, 日本農業経営学会

■取得学位 博士(農学)(神戸大学)

略歴

- 2013年3月 神戸大学大学院農学研究科食料共生システム学専攻 博士課程後期課程修了 博士(農学)
- 2013年4月 神戸大学大学院農学研究科附属食資源教育研究センター 特命助教
- 2017年10月 公立鳥取環境大学環境学部環境学科 講師
- 2023年4月 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科環境学専攻 准教授

■主な担当科目 農村の持続的発展, 都市の持続的発展

SDGs関連項目



《研究内容の紹介・授業の特徴等》

ゼミ学生と農村地域でフィールドワークをしながら、地域農業や農村の将来像について考えています。

研究活動等

プロフィール



研究キーワード 野生動物, 共存, 種内変異, 社会化の過程, 社会性の進化

谷口 晴香

講師

TANIGUCHI, Haruka

所属…環境学部 環境学科 大学院 環境経営研究科 環境学専攻

■専門分野 霊長類学, 動物行動学, 生態人類学
現在の研究テーマ

- ・環境がニホンザルの社会関係の発達に与える影響
- ・環境がニホンザルの育児体系に与える影響
- ・人間活動を含めた環境が野生動物の社会に与える影響

■著書

- ・『フィールドにみえた<社会性>のゆらぎ：霊長類学と人類学の出会いから』（共編著），2025年，京都大学学術出版会

■論文

- ・「環境としての他者：ニホンザルのアカンボウの伴食相手の変化を事例に」，2025年，『フィールドにみえた<社会性>のゆらぎ：霊長類学と人類学の出会いから』，京都大学学術出版会
- ・「ニホンザルのアカンボウの集まり：地域間比較の試み」，2025年，『社会性の起原と進化 始論：種と性を越えた比較研究のために』，京都大学学術出版会
- ・「ヤクシマザルの離乳期のアカンボウの伴食行動：アカンボウの集まりに着目して」，2022年，『生態人類学会ニュースレター』28号
- ・「Wound healing in wild male baboons: Estimating healing time from wound size」（共著），2018年，『PLOS ONE』vol. 13

■報告書・その他

- ・「フィールドノートを落としたとき：探すか、見捨てるか、それが問題だ」，2025年，『ザ・フィールドワーク：129人のおどろき・とまどい・よろこびから広がる世界』，京都大学学術出版会
- ・「2022年度フィールドネット・ラウンジ企画 フィールドワークってなんだ？：異分野方法論談議（霊長類学・言語学・歴史学・人類学）」，2023年，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，URL：https://fieldnet-aa.jp/lounge/assets/20230109_Fieldnet_lounge_Report.pdf
- ・「野生ニホンザルの離乳期の子育て」，2020年，『ヒトを見るようにサルを見る』，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，URL：https://sociality.aa-ken.jp/data/wp-content/uploads/2020/11/Report_on_colloquium_2020.pdf

■所属学会 日本霊長類学会，生態人類学会，鳥取県生物学会，屋久島学ソサエティ

■取得学位 博士（理学）（京都大学）

■略歴

- 2016年3月 京都大学大学院理学研究科生物科学専攻 博士課程修了
- 2017年8月 琉球大学 国際地域創造学部 ポスドク研究員（～2018年（平成30年）7月）
- 2020年4月 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 研究機関研究員
- 2024年4月 公立鳥取環境大学環境学部環境学科 講師
- 2025年4月 公立鳥取環境大学大学院 環境経営研究科環境学専攻 講師

■主な担当科目 動物行動学，保全生物学，生物学概論

《研究内容の紹介・授業の特徴等》

環境が動物の社会構造に影響を及ぼすことや，その社会構造の違いが社会化の過程に影響を及ぼすことが報告されています。私は，それらを総合的に検討し，他個体に対する社会的態度がいかにその集団内において再生産されるか/変容するかを研究しています。



研究キーワード 環境政策, 経済的手法

石川 真澄

ISHIKAWA, Masumi

経営学部長, 環境経営研究科副研究科長, 環境経営研究科経営学専攻長
教授

所属…経営学部 経営学科 大学院 環境経営研究科 経営学専攻

■専門分野 経済政策論, 環境経済論
現在の研究テーマ
・経済的手法による環境政策の研究

研究活動等

■著書
・「循環型社会のキーコンセプト (拡大生産者責任)」「ドイツのリサイクル政策」「エコツーリズム」「環境税・炭素税」(「地球環境読本Ⅱ」, 2004年8月, 丸善 所収)
・「観光地のライフサイクルと持続可能性」(「現代社会とツーリズム」2001年4月, 東海大学出版会, 第五章)

報告書

・「日本からアジアに展開する廃棄物系バイオマス利活用による3R定着に関する研究」第6章1節, 2014年3月

■所属学会 日本経済政策学会, 環境経済・政策学会, 廃棄物資源循環学会

■取得学位 経済学修士 (同志社大学)

略歴

1995年3月 同志社大学大学院経済学研究科博士課程 (後期) 経済政策専攻退学
1995年4月 宮崎産業経営大学経済学部専任講師
2001年4月 鳥取環境大学環境情報学部環境政策学科専任講師
2004年1月 鳥取環境大学環境情報学部環境政策学科助教授
2012年4月 鳥取環境大学経営学部経営学科准教授
2015年4月 公立鳥取環境大学経営学部経営学科・大学院環境情報学研究科環境情報学専攻准教授
2016年4月 公立鳥取環境大学経営学部経営学科副学部長・大学院環境経営研究科経営学専攻准教授
2017年10月 公立鳥取環境大学経営学部経営学科副学部長・大学院環境経営研究科経営学専攻教授
2022年4月 公立鳥取環境大学副学長補佐, 経営学部経営学科・大学院環境経営研究科経営学専攻教授
2026年4月 公立鳥取環境大学経営学部長

■主な担当科目 公共政策論, 日本経済論, マクロ経済学入門

研究内容の紹介・授業の特徴等

税や課徴金などの市場経済の仕組みを用いて経済や社会を自然環境と調和したものに誘導する政策を研究しています。

担当する講義ではスタンダードな学説を, 現実の社会の出来事と関連付けて理解することができるよう努めています。

プロフィール



研究キーワード マーケティング, 企業の社会的責任, 社会的大義, コーズ・リレーテッド・マーケティング

竹内 由佳

TAKEUCHI, Yuka

経営学部副学部長
准教授

所属…経営学部 経営学科 大学院 環境経営研究科 経営学専攻

■専門分野 流通論, マーケティング論, 消費者行動論
現在の研究テーマ
・社会的大義の達成とマーケティングの両立に関する研究
・社会的大義に関わろうとする消費者像に関する研究

研究活動等

■著書
・「社会を変えるマーケティング」, 千倉書房, 2020年
・「SDGsとマーケティング」, 高井亨, 中田紫乃編著『SDGsを考える——歴史・環境・経営の視点からみた持続可能な社会』, ナカニシヤ出版, 2020年

論文

・「農業従事者と地域事業者とのマーケティングによる価値共創ー「鳥取」というブランドづくりを目指してー」, 2022地域イノベーション研究センター事業報告書
・「プロジェクト・ヘルシュによる鳥取県の農産物マーケティング支援ー食のみやこ鳥取づくり連携支援に基づく地域事業者との価値創生ー」, 2021地域イノベーション研究センター事業報告書
・「広がれ!! プロジェクト・ヘルシュ!! 食のみやこ鳥取作り連携支援計画に基づく地域事業者支援の基盤構築ー」, 2020地域イノベーション研究センター事業報告書
・「環大経営学部がやるしかない!!ー鳥取における鳥取のための産官学連携シカ肉によるPBL教育ー」, 2019地域イノベーション研究センター事業報告書
・「社会的大義を訴求するマーケティングの成立過程とその要因」, 2019年, 博士論文 (神戸大学)
・「マーケティングと企業の社会的責任」, 『季刊マーケティング・ジャーナル』, 2011年, 第119巻

■所属学会 日本商業学会, 大学教育学会, 日本リメディアル教育学会

■取得学位 博士 (商学) (神戸大学)

略歴

2017年4月 公立鳥取環境大学経営学部 講師
2018年7月 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科経営学専攻 講師
2018年9月 神戸大学大学院経営学研究科博士後期課程単位取得, 博士 (商学)
2021年4月 公立鳥取環境大学経営学部/大学院環境経営研究科経営学専攻 准教授
2022年4月 公立鳥取環境大学経営学部 副学部長

■主な担当科目 流通論, マーケティングⅠ, 地域マーケティング

研究内容の紹介・授業の特徴等

世の中ではキラキラしたイメージの「マーケティング」ですが, 学術的には, 社会のある一面について切り取り解釈をする研究です。進まないし, 何が言いたいか自分でもわからなくなりますが, とことん考えるのは楽しいです。

プロフィール



研究キーワード 動的平衡, 情報化・ソフト化, 新しい公共

藤木 善夫

特任教授

FUJIKI, Yoshio

所属…経営学部 経営学科

■専門分野 経営戦略, 経営情報システム

現在の研究テーマ

- ・経済のソフト化による行動様式の変化が各種産業のビジネスモデルの変容に与える影響
- ・ソーシャルビジネス（S B）についての研究

■著書

- ・地方創生のための経営学（共著）2026（令和8）年3月（有）時潮社
- ・強い会社をつくるバランス会計入門（共著）2018（平成30）年10月（株）中央経済社
- ・マネジメントの基礎—企業と地域のマネジメント考—（共著）2018（平成30）年4月（株）五弦舎

■論文

- ・卸売業経営の存在意義再考—卸売商存立根拠論と問屋無用論のはざままで— 2017年 『産業経済研究』第17号

■資格 中小企業診断士

■取得学位 経済学修士（名古屋市立大学）

■略歴

- 2004年3月 名古屋市立大学大学院経済学研究科修士課程修了
- 2006年4月 名古屋市立大学大学院経済学研究科博士後期課程入学
- 2010年3月 名古屋市立大学大学院経済学研究科博士後期課程満期退学
- 2004年4月 学校法人愛知産業大学愛知産業大学短期大学経営学科専任講師
- 2007年4月 学校法人愛知産業大学愛知産業大学経営学部ビジネスマネジメント学科専任講師
- 2009年4月 学校法人愛知産業大学愛知産業大学経営学部総合経営学科准教授
- 2010年4月 学校法人東海学園東海学園大学経営学部経営学科准教授
- 2024年9月 公立鳥取環境大学経営学部特任教授

■主な担当科目 経営情報論, 経営情報システム, 情報産業論

《先生からの一言》

インターネットの普及による社会の変化の中に、「情報化」があります。情報化とは「情報が資源と同等の価値を有し、情報を中心として機能する社会へと変化していくこと」と定義されます。SNS, AIなど真偽さえ区別のつかない情報もあります。このような氾濫する情報を正しく取捨選択できる良質な知識と知恵を身につけたい。大学で学ぶ意義がここにあると思います。

プロフィール



研究キーワード 国際財務報告基準, 内部統制, 監査上の主要な検討事項

柳 年哉

特任教授

YANAGI, Toshiya

所属…経営学部 経営学科

■専門分野 会計学, 国際財務報告基準, 監査論

現在の研究テーマ

- ・日本企業における国際財務報告基準（International Financial Reporting Standards-IFRS）の実務対応に関する研究
- ・コーポレートガバナンスの一環としての内部統制システム導入の考察
- ・独立監査人の監査報告書に記載される監査上の主要な検討事項（Key Audit Matters-KAM）と監査手続の関連に関する研究

■著書

- ・『図解 簿記・会計の基本テキスト 改訂版』（共著）2026（令和8年）3月 同文館出版
- ・『文科系のための経営工学入門』（共著）2025年（令和7年）2月 同文館出版
- ・『海外子会社の内部統制評価実務』（共著）2018（平成30年）7月 同文館出版
- ・『英文会計のコミュニケーション』第2版（共著）2017（平成29年）3月 同文館出版

■資格 公認会計士（日本公認会計士協会）

■取得学位 経済学士（和歌山大学）

■略歴

- 1979年3月 和歌山大学経済学部卒業
- 1979年11月 クーパース&ライブランド公認会計士事務所入所（～1984（昭和59）年3月）
- 1984年4月 昭和監査法人（現：EY 新日本有限責任監査法人）入所
- 1999年4月 和歌山市包括外部監査補助者（～2002（平成14）年）
- 2006年4月 関西大学会計専門職大学院 “国際監査事例研究” 講義担当 非常勤講師（～2012（平成24）年）
- 2008年7月 新日本有限責任監査法人 大阪事務所 国際部部門長 シニアパートナー（～2017（平成29）年6月）
- 2019年4月 公立鳥取環境大学 経営学部 経営学科 教授
- 2023年4月 公立鳥取環境大学 経営学部 経営学科 特任教授

■主な担当科目 会計学入門, 財務会計, 商業簿記2

cpaey22@kankyo-u.ac.jp

《研究内容の紹介・授業の特徴等》

主な研究内容：企業のガバナンスの構築（内部統制システムの構築）
授業の特徴：図解を用いた授業と会計処理の演習問題を授業中に解く

研究活動等

プロフィール



研究キーワード 経営情報, 要求定義, 情報連携

齊藤 哲

SAITO, Tetsu

AI・数理・データサイエンス教育研究センター長
特任教授

所属…経営学部 経営学科 環境経営研究科 経営学専攻

研究活動等

■専門分野 経営工学, プロジェクトマネジメント, 要求工学
現在の研究テーマ

- ・事業構造改革・業務改革プロジェクトへの経営工学手法の適用
- ・業務要求定義と情報システム要求定義の同時的設計手法の適用
- ・DXに代表される情報システム改革でのプロジェクトマネジメント手法の適用

■著書

・「経営のしくみがわかる 文系科のための経営工学入門」(共著), 2025年, 同文館出版

■論文

・「企業情報システム開発における行列を用いた情報連携表記方法(MDM)」, 2018年, 早稲田大学創造理工学研究科 学位論文

■学会発表

- ・「文科系初学者への経営工学教育」, 2025年, 日本経営工学会2025年春季大会
- ・「大学におけるPBLによるプロジェクトマネジメント教育」, 2025年, プロジェクトマネジメント学会 2025年度秋季研究発表大会
- ・「中小製造業における製造DX推進上の課題とその解決方法」, 2024年, 日本経営工学会 2024年秋季大会
- ・「An Investigation into Refining Accuracy of Business Quote Estimation by Digitalization in Small and Medium Manufacturing Enterprises in Japan」, 2023年, The 7th Asian Conference of Management Science and Application (ACMSA 2023)

■所属学会

日本経営工学会, 電気学会 C(電子・情報・システム)部門, プロジェクトマネジメント学会

■資格

中小企業診断士, 情報処理技術者資格(プロジェクトマネージャ, システム監査技術者, システムアナリスト)

プロフィール

■取得学位 博士(経営工学) 早稲田大学

■略歴

- 1981年3月 慶應義塾大学商学部卒業
- 2018年3月 早稲田大学大学院創造理工学研究科経営デザイン専攻博士課程修了, 博士(経営工学)
- 1981年4月 株式会社日立製作所(～2015年3月)
- 2015年4月 株式会社日立産業制御ソリューションズ(～2021年3月)
- 2021年4月 公立鳥取環境大学経営学部経営学科教授
- 2023年4月 公立鳥取環境大学 AI・数理・データサイエンス教育研究センター長

■主な担当科目 経営工学, 生産管理, プロジェクトマネジメント

SDGs関連項目



《研究内容の紹介・授業の特徴等》

経営工学やプロジェクトマネジメントは, 実践的な学問領域である。講義・演習では, 単に理論や方法論を学ぶだけではなく, 社会人や企業との連携を通して, 実務に生かせる力を身につける。



社会人を招いた研究発表会



企業との共創プロジェクト



研究キーワード 財務理論, 企業価値評価, 事業承継, ケースメソッド

吉田 高文

YOSHIDA, Takafumi

教授

所属…経営学部 経営学科 大学院 環境経営研究科経営学専攻

研究活動等

■専門分野 経営財務論, 企業経済論
現在の研究テーマ

- ・財務均衡理論の研究
- ・外食産業の経営事例
- ・ケースメソッド教育の研究

■著書

・「企業財務制度の構造と変容」(共著, 牟田正人・池上恭子編), 2006年, 九州大学出版会

■論文

・「経営決定における「市場価値ルール」と「サイド・ペイメント」」, 2021年, 日本戦略MG教育学会『戦略MG教育研究』第2号

■学会報告

- ・「資本コスト概念の理解」, 2023年, 日本マネジメント学会中国・九州部会
- ・「外食産業の原料国産化—リンガーハットの事例」, 2019年, 日本マネジメント学会中国・九州部会

■所属学会

日本経営学会, 日本経営財務研究学会, 日本マネジメント学会, 九州経済学会, 日本戦略MG教育学会

プロフィール

■取得学位 経済学修士(名古屋大学)

■略歴

- 1982年3月 名古屋大学経済学部経営学科卒業
- 1988年3月 名古屋大学大学院経済学研究科後期課程単位取得満期退学, 経営学専攻
- 1988年4月 長崎大学経済学部講師
- 1993年12月 長崎大学経済学部助教授
- 2009年4月 国立大学法人長崎大学経済学部教授
- 2016年4月 国立大学法人長崎大学名誉教授
- 2017年4月～ 公立鳥取環境大学経営学部経営学科教授
- 2018年4月～ 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科経営学専攻教授
- 2022年4月～ 2026年年3月 公立鳥取環境大学経営学部長
公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科長
公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科経営学専攻長

■主な担当科目 ファイナンス入門, コーポレート・ファイナンス

✉ ta-yoshi@kankyo-u.ac.jp

《研究内容の紹介・授業の特徴等》

Franco Modigliani, Merton H. Miller, Eugene F. Fama等のファイナンス理論および企業評価論を研究している。また株式会社リンガーハット(創業者は鳥取県出身の米濱氏)等の外食産業の経営戦略や経営理念を研究している。



研究キーワード センサーネットワーク、インターネットアプリケーション、デジタルアーカイブ、IoT

今井 正和

教授

IMAI, Masakazu

所属…経営学部 経営学科 大学院 環境経営研究科 経営学専攻

■専門分野 インターネット応用、環境計測、デジタルアーカイブ

現在の研究テーマ

- ・ネットワークを使用した密な気象データの収集
- ・ネットワークを用いた場の共有
- ・情報の蓄積とその活用

■論文

- ・「Implementation of high-definition lecture recording system for daily use」(共著), 2013年, Proc. of EDUCON2013, pp. 510-525
- ・「Live EIを活用した小学生の理科学習を支援するシステム」(共著), 2012年, インターネットコンファレンス2012論文集, pp. 115-116
- ・「講義ビデオの活用に向けた講義音声の発話特徴分析」(共著), 2011年, 情報処理学会教育学習支援情報システム研究会

■受賞歴

- 1996年3月 電子情報通信学会第7回データ工学ワークショップ (DEWS'96) 最優秀論文賞
- 2004年9月 電子情報通信学会情報システムソサエティ活動功労賞

■所属学会 電子情報通信学会, 情報処理学会

■取得学位 工学博士 (大阪大学)

■略歴

- 1982年3月 大阪大学基礎工学部制御工学科卒業
- 1987年3月 大阪大学大学院基礎工学研究科博士後期課程修了
- 1987年4月 大阪大学助手基礎工学部
- 1993年4月 奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科助教授
- 1997年9月 米国The University of Michigan客員助教授(～1998年7月)
- 2001年4月 鳥取環境大学環境情報学部情報システム学科教授
- 2012年4月 公立鳥取環境大学経営学部経営学科教授
- 2014年4月 公立鳥取環境大学人間形成教育センター センター長 (～2026年3月), 副学長補佐 (～2016年3月)
- 2016年4月 公立鳥取環境大学副学長 (～2022年3月) 大学院環境経営研究科経営学専攻教授

《先生からの一言》

皆さんの夢は何ですか？大学は自分の夢を実現するための通過点だと思います。人生の夢を見つけるために必要な知識を身につけ、それを基にして新しい、一生の夢を大学生のうちに見つけてください。

プロフィール



研究キーワード インターネット運用技術、組み込み、工学教育、分散システム

齊藤 明紀

情報メディアセンター長
教授

SAITOH, Akinori

所属…経営学部 経営学科 大学院 環境経営研究科 経営学専攻

■専門分野 情報工学

現在の研究テーマ

- ・分散システム運用技術
- ・工学教育

■著書

- ・ネットワークシステムの信頼性保証(分担執筆), 2014年7月, 新版 信頼性ハンドブック

■報告書

- ・「個人必携パソコンによる情報環境 - 鳥取環境大学の事例-」, 2016年9月, SS研究会教育分科会第1回会合

■口頭発表

- ・「サイバーセキュリティ 2022 ～技術と人間～」, 2022年11月, 鳥取県サイバーテロ対策協議会

■受賞歴

- 1986年3月 大阪大学基礎工学部情報工学科楠本賞 (主席卒業) 受賞
- 2002年5月 情報処理学会 平成13年度論文賞受賞
- 2012年3月 情報処理学会 平成23年度山下記念研究賞受賞
- 2014年10月 デミング賞委員会 平成26年度日経品質文献賞受賞 (「新版 信頼性ハンドブック」に対して)

■所属学会 情報処理学会, 電子情報通信学会

■取得学位 工学博士 (大阪大学)

■略歴

- 1991年4月 大阪大学基礎工学部情報工学科 助手
- 1994年2月 大阪大学情報処理教育センター 講師
- 1999年4月 大阪大学大学院基礎工学研究科情報数理系専攻 講師
- 2002年4月 大阪大学 大学院情報科学研究科コンピュータサイエンス専攻 助教授
- 2004年7月 鳥取環境大学環境情報学部情報システム学科教授
- 2012年4月 鳥取環境大学経営学部経営学科教授
- 2016年4月 公立鳥取環境大学情報メディアセンター長 (兼任), 大学院環境経営研究科経営学専攻教授

saitoh@kankyo-u.ac.jp

《研究内容の紹介・授業の特徴等》

情報機器・ネットワークシステムの運用管理手法の研究をしています。授業に関しては受講生が非・情報系であることを考慮したわかりやすい内容を心がけています。

研究活動等

プロフィール



研究キーワード マーケティング, 新製品開発, 創造性, アイデア, デザイン

磯野 誠

教授

ISONO, Makoto

所属…経営学部 経営学科 大学院 環境経営研究科 経営学専攻

URL www.makotoisono.com

Eメール m-isono@kankyo-u.ac.jp

■専門分野 マーケティング, 新製品開発, ブランド, デザイン

現在の研究テーマ

- ・新製品・サービスのアイデア開発における創造性
- ・地域創生のためのマーケティング

■著書

- ・『地方創生のための経営学』（共編著），2026年，時潮社。
- ・『一冊でわかる，できる マーケティング入門』（単著），2025年，ナカニシヤ出版。
- ・『アイデアをもたらず思考』（共著・主），2024年，ナカニシヤ出版。

■論文

- ・『創造的なアイデア開発のための概念結合とアナログの活用とそれらの関係』，2023年，（共著）『デザイン学研究』69(4)，29-38。
- ・『ビジョニングによるアイデア創出における効果的なビジョン想像』，2022年，（共著）『デザイン学研究』68(3)，63-72。
- ・『ビジョニングによる製品アイデア創出における認知プロセス』，2020年，『デザイン学研究』67(2)，1-10。
- ・『新製品アイデア開発における視覚化とアナログ活用の効果』（共著），2019年，『国民経済雑誌』220(6)，1-17。

■Proceedings

- ・"The Process of Designers to Motivate Themselves for Their Creative Performance,"（共著・主），International Association of Societies of Design Research Congress 2025
- ・"From Vision to Idea: The Cognitive Process of Vision-Driven Idea Development," 2018 The Proceedings of 25th International Product Development Management Conference.

■受賞歴 2023年日本デザイン学会年間論文賞

■所属学会 日本デザイン学会，日本商業学会，日本消費者行動研究学会

■取得学位 博士（商学）（神戸大学）

■略歴

- 2008年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士後期課程現代経営学専攻修了，博士（商学）
- 2000年2月 Procter & Gamble Far East Inc. （～2009年6月）
- 2012年4月 鳥取環境大学経営学部経営学科准教授
- 2016年4月 公立鳥取環境大学経営学部経営学科教授，大学院環境経営研究科経営学専攻教授

《研究内容の紹介・授業の特徴等》

マーケティングや新製品・サービス開発における創造性の問題を研究しています。ゼミでは鳥取のイラスト土産ブランド「とっとりメモリー」（絵はがき，ステッカー，クリアファイル，手ぬぐいなど）の開発・販売をしています。まちなかの「鳥取市ふるさと物産館」にて好評発売中です。



研究活動等

プロフィール



研究キーワード 環境NGO, 公害被害者救済, 市民活動, 中国の環境問題, 東アジアの国際協力

相川 泰

教授

AIKAWA, Yasushi

所属…経営学部 経営学科 大学院 環境経営研究科 経営学専攻

■専門分野 中国環境研究, 東アジア国際関係, 民間非営利部門論

現在の研究テーマ

- ・中国における環境問題と政策，特に環境汚染の実態および被害者救済
- ・日本・中国・韓国の環境NGO・市民活動，それらの国際展開，相互交流・協力
- ・上記の背景となる国際関係の歴史と動向・展望，ポストSDGs

■著書

- ・『中国年鑑』環境問題（動向，要覧）欄，1995年～2008年および2018年～執筆担当
- ・Environmental Policy and Governance in China（共著），2017年，Springer
- ・『中国汚染——「公害大陸」の環境報告』，2008年3月，ソフトバンククリエイティブ
- ・『中国環境ハンドブック』（共編著），2004年，2007年，2009年，2011年，蒼蒼社

■論文

- ・『環境分野からみる中国の民間——NGOを中心に』，2020年9月，『現代中国』94
- ・『SDGsの来た道』，2020年3月，高井・甲田編『SDGsを考える』ナカニシヤ出版，第2章
- ・『中国におけるプラスチックごみ問題』，2019年9月，『環境経済・政策研究』12-2
- ・『転換期にある東アジア地域の民間非営利環境協力』，2014年4月，『鳥取環境大学紀要』12

■所属学会

環境経済・政策学会，アジア政経学会，環境社会学会，日本環境会議，日本現代中国学会

■取得学位 修士（学術）（東京大学）

■略歴

- 2004年4月 鳥取環境大学環境情報学部環境政策学科専任講師
- 2022年4月 公立鳥取環境大学経営学部経営学科教授・大学院環境経営研究科経営学専攻教授

■主な担当科目 アジア環境論，環境経済論，国際関係入門

SDGs関連項目



《研究内容の紹介・授業の特徴等》

中国をはじめ東・南アジア諸国・地域の環境問題の現状と，それに対する市民社会の取り組みにつき，参与観察の形で関わりつつ研究しています。現場にも行きますし，オンラインの活用も特にコロナ禍後は増えました。



中国の環境汚染地域で日本の水俣病につき中国語で講演

研究活動等

プロフィール



研究キーワード 人口動態, 就業選択, 行動経済学

西村 教子

教授

NISHIMURA, Noriko

所属…経営学部 経営学科 大学院 環境経営研究科 経営学専攻

■専門分野 開発経済学, 人口経済学

現在の研究テーマ

- ・ 少子高齢化時代の農業ファミリービジネスと女性経営参画—長期公的パネルデータ分析—
- ・ 危険回避行動と先送り行動が男性の晩婚化・未婚化にもたらす影響に関する実証研究

■論文

- ・ 「小規模農家の経営継承と新規参入の特徴と課題— 2000 ～ 2015 年農林業センサス世帯員パネルデータの構築と利用 —」 (共著), 2025年3月, 『立命館経営学』, 第63巻第6号, 1 ～ 22頁
- ・ 「『農林業センサス』世帯員パネルデータの構築からみえるもの—農家の経営継承と新規参入の特徴—」, 2024年7月, 『統計』, 第75巻第7号, 51 ～ 54頁
- ・ 「なぜ未婚男性は『婚活』をしないのか—リスク回避が先送りか」, 2023年4月ソシオネットワーク戦略ディスカッションペーパーシリーズ第108号, 関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構
- ・ 「危険回避と時間選好が男性の晩婚化・未婚化にもたらす影響」, 2020年2月ソシオネットワーク戦略ディスカッションペーパーシリーズ第82号, 関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構
- ・ 「農林業センサスの高度利用: 世帯パネルから世帯員パネルへ」 (共著), 2017年5月, 『農業と経済』, 第83巻第5号, 71 ～ 80頁
- ・ 「農林業センサスにおける世帯員パネルデータの構築実験」 (共著), 2017年, 『農林水産統計デジタルアーカイブ講座Working Paper Series』, No.6.

■講演・口頭発表

- ・ 「2025年農林業センサスの事項変更が与える影響の検討—世帯員パネルデータを用いた家族の農業従事に関する分析—」 (共同) 2025年度統計関連学会連合大会, 2025年9月9日
- ・ 「農林業センサスの高度利用—世帯員パネルデータによる新規参入と経営継承の特徴—」 公的統計ミクロデータ研究コンソーシアム シンポジウム2023, 2023年11月24日
- ・ 「未婚男性の『婚活』を思い止まらせるのはリスク回避が先送りか?」 日本人口学会第75回大会, 2023年6月11日
- ・ 「小規模農家の親族継承の特徴—農業センサスパネルデータによる分析—」 (共同) 2022年度統計関連学会連合大会, 2022年9月6日
- ・ 「危険回避と時間選好が男性の晩婚化・未婚化にもたらす影響」 日本人口学会第72回大会, 2020年11月14日
- ・ 「新規参入農家の家族の役割—農業センサス世帯員パネルデータによる分析—」 (共同) 2020年度統計関連学会連合大会, 2020年9月9日
- ・ 「新規若手農業経営者から見る担い手課題—農林業センサス世帯員パネルデータの構築—」 (共同) 2019年度統計連合大会, 2019年9月10日

■所属学会 国際開発学会, 経済統計学会, 日本人口学会, 日本統計学会

■取得学位 博士 (学術) (神戸大学)

■略歴

2022年4月 公立鳥取環境大学国際交流センターセンター長 (～ 2026年3月)

《先生からの一言》

日本人口の減少に伴い, 社会や経済はどんどん変化していくことでしょう。皆さんはこれからどのように働き, 家族を作り, 生活をしていくのでしょうか。このような人々の行動を意思決定の学問である経済学を使って説明しようと研究を進めています。

プロフィール



研究キーワード 技術経営, 技術戦略, イノベーション戦略

光山 博敏

教授

MITSUYAMA, Hirotohi

所属…経営学部 経営学科 大学院 環境経営研究科 経営学専攻

■専門分野 技術経営, 技術戦略, イノベーション戦略

現在の研究テーマ

- ・ 海外調達部品増加に伴う見込み生産からの脱却と革新的グローバルサプライチェーン戦略
- ・ 製造業のデータ主権を守る「翻訳機戦略」: ORiNとAASによるグローバル連携の実装シナリオ

■著書

- ・ 「地方創生のための経営学入門」 (共著), (2026) 時潮社, pp.75-95.
- ・ JMA監修 Think!別冊 special issue No.11 2024 東洋経済新報社, pp.20-25.
- ・ 「現場力-強い日本企業の秘密」 (共著), (2020), 筑摩書房
- ・ 「地方創生のための経営学入門」 (共著), (2019) 今井書店, pp.183-202.
- ・ 「一橋ビジネスレビュー」 (共著), (2017冬号) 東洋経済新報社, pp.108-121.

■論文

- ・ Drivers for CPS adoption in the manufacturing industry: Implications for productivity improvement, Journal of Electrical Systems Vol.20, 10s (2024): 165 - 174.
- ・ Consideration on the Essence of Industry 4.0. (2019) International Journal of Business and Management Studies, 12 (1) pp.43-50.
- ・ Understanding the Essential Features of Industry 4.0 in Germany. (2018) International Journal of Business and Management Studies, 6 (2):pp.441-450.
- ・ A Comparative Study on the Impact of in-House Manufacturing Machinery Departments on Sustainable Competitive Advantage. (2017) International Journal of Business and Management Studies, Vol 5 (2):pp.1-8.
- ・ A Study of Trans-Generational Manufacturing Design Paradigm Paralysis in Japan. (2016) International Journal of Business and Management, Vol.8 (5):pp.37-48.
- ・ A Study on the Correlation between Inimitable Factors and Sustainable Competitive Advantage for Detail Controlled Parts Manufacturers in Japan.” (2015) International Journal of Business and Management Studies, Vol.3 (2):pp.137-147.
- ・ The Hidden Competitiveness of Japanese Manufacturing Industry” (2013) Macrotheme Review, Vol.2 (3):pp.10-21.
- ・ Consideration of the Technology Brands and Price Premium Strategies for SPM in Japan. (共著), (2013) International Journal of Business Performance Management, Vol.14 (4):pp. 356-367.

■所属学会 組織学会, 日本MOT学会, 研究・イノベーション学会

■取得学位 博士 (技術経営) (立命館大学MOT大学院)

■略歴

2021年4月 公立鳥取環境大学 経営学部経営学科/大学院環境経営研究科経営学専攻 教授

mitsu414@kankyo-u.ac.jp

SDGs関連項目



《研究内容の紹介・授業の特徴等》

日本製造業の強み (固有技術・現場力) の再評価を, 技術経営・イノベーション戦略の視点から体系的に分析するとともに, デジタル技術の導入実効性が生産性向上に与える影響について検証し, 持続的競争優位に資する日本型ものづくり戦略について研究しています。

研究活動等

プロフィール



研究キーワード 日本的経営, 人的資源管理, 多国籍企業, 戦略的提携

俞 成華

教授

Yu, Chenghua

所属…経営学部 経営学科 大学院 環境経営研究科 経営学専攻

you-ch@kankyo-u.ac.jp

■専門分野 人的資源管理, 国際経営, 組織間関係
現在の研究テーマ

- ・人的資源管理の国際比較 ・日本の経営・生産システムの海外移転可能性
- ・イノベーション・マネジメント ・中国電気自動車のR&D・普及と環境戦略

■著書

- ・『地方創生のための経営学』（共編著）序章「経営と経営学」；第2章「経営管理」；第5章「人的資源管理」, 2026年3月, 時潮社.
- ・『日中合併企業のマネジメント—技術・資金・人的資源』, 2013年4月, ミネルヴァ書房.

■論文

- ・『Open Innovation in China's New Energy Vehicle Market: Case Study of BYD Auto Co., Ltd.』, 2025年3月, 『公立鳥取環境大学紀要2025』, PP.1-14.
- ・『伝統ある日本酒メーカーの経営変革に関する一考察—千代むすび酒造株式会社的事例を中心に—』, 2024年5月, 『公立鳥取環境大学紀要2024』, PP.1-14.
- ・『マレーシアにおける日系企業の人材マネジメント—日系製造業3社の事例を中心に—』, 2022年11月, 『公立鳥取環境大学紀要2022』, PP.25-35.
- ・『中国新エネルギー車産業における破壊的イノベーションに関する一考察』, 2021年10月, 『公立鳥取環境大学紀要2021』, PP.9-25.
- ・『中国民族系小売企業の関係性マネジメントに関する一考察—永輝超市の事例を中心に—』（共著）, 2020年12月, 中国経済経営学会『中国経済経営研究』第4巻第2号, PP.20-36.

■所属学会 日本経営学会, 日本労務学会, 中国経済経営学会, 人材育成学会

■取得学位 経営学博士（横浜国立大学）

■略歴

- 2001年3月 東京都立大学 経済学部 卒業
- 2006年3月 横浜国立大学大学院 国際社会科学研究科 博士課程後期 経営学博士 修了
- 2009年4月 帝京平成大学 現代ライフ学部レジャービジネス学科 助教
- 2012年9月 中国福建理工大学 管理学院マーケティング学科 准教授
- 2016年4月 九州国際大学 現代ビジネス学部地域経済学科 特任教授
- 2021年4月 公立鳥取環境大学 経営学部経営学科 兼任 環境経営研究科 経営学専攻 教授

■主な担当科目 （学部）国際経営論, 人的資源管理論, 経営倫理 （大学院）経営管理特論

《先生からの一言》

大学生活において学ぶことの楽しさを存分に実感してください。4年間で充実した大学生活にするために、自分の好きなことに一杯チャレンジし、最後までやりきることが大切です。大学での学びを通じて社会人基礎力を身につけ、地域や国際を舞台に活躍できる人材になることを期待しています。

プロフィール



研究キーワード イギリス東インド会社, インド経済史, インド貨幣史, 貨幣の多様性, 貨幣経済化

谷口 謙次

准教授

TANIGUCHI, Kenji

所属…経営学部 経営学科 大学院 環境経営研究科 経営学専攻

■専門分野 経営史, インド経済史, アジア経済史
現在の研究テーマ

- ・植民地期インドでのイギリス東インド会社による貨幣政策の分析
- ・植民地初期のイギリス東インド会社の性格について
- ・近世以降のインドにおける貨幣の多様性について
- ・19世紀前半のインド経済について, インド貨幣史概論について

■著書

- ・『近現代熱帯アジアの経済発展——人口・環境・資源』（第4章「中世初期の北インドにおける貨幣状況」担当）, 2024年, ミネルヴァ書房
- ・『SDGsを考える——歴史・環境・経営の視点からみた持続可能な社会』（共著）, （第1章「歴史からみた環境と経済開発」担当）, 2020年, ナカニシヤ出版
- ・『帝国とアジア・ネットワーク—長期の19世紀—』（共著）（第3章「18世紀後半のベンガルにおけるイギリス東インド会社の貨幣政策」担当）, 2009年, 世界思想社

■論文

- ・『19世紀前半のインドにおける経済不況と貨幣供給—貴金属貿易と貨幣製造』（単著） 2016年10月 三田学会雑誌 109巻3号
- ・『近世南アジアの貨幣制度と18世紀ベンガルにおける貨幣の多様性』（単著） 2012年10月 松山大学論集 第4-2号
- ・『18世紀後半のベンガルにおける銀不足問題とベンガル植民地政府財政』（単著） 2012年3月 経済学雑誌第112巻第4号
- ・『18世紀末ベンガルにおけるイギリス東インド会社の鑄造所改革』（単著） 2010年3月 経済学雑誌第110巻第4号

■所属学会 社会経済史学会, 南アジア学会

■取得学位 博士（経済学）（大阪市立大学）（2012年）

■略歴

- 2001年3月 大阪市立大学大学院経済学研究科前期博士課程 修了
- 2009年3月 大阪市立大学大学院経済学研究科後期博士課程 単位取得後退学
- 2018年4月 公立鳥取環境大学 経営学部経営学科講師
- 2024年4月 公立鳥取環境大学 環境経営研究科経営学専攻准教授

■主な担当科目 経済史, 西洋経営史, 日本経営史

《研究内容の紹介・授業の特徴等》

植民地インドにおける貨幣改革とそれに伴うインド経済の変容について

研究活動等

プロフィール



研究キーワード 多国籍企業, 貿易, 直接投資, グローバル・サプライチェーン

連 宜萍

准教授

LIEN, Yiping

所属…経営学部 経営学科 大学院 環境経営研究科 経営学専攻

研究活動等

■専門分野 国際経済学, 経済発展論, 多国籍企業論
現在の研究テーマ

・揺らぐ自由貿易下における多国籍企業の直接投資とグローバル・サプライチェーン

■著書

・『地方創生のための経営学』（共著）, 2026年, 時潮社
・『SDGsを考える一歴史, 環境, 経営の視点からみた持続可能な社会』（共著）, 2020年, ナカニシヤ出版

■論文

・「揺らぐ自由貿易協定が直接投資とグローバル・サプライチェーンに与える影響—TPPとRCEPの影響に関する分析枠組み—」, 2023年, 『多国籍企業研究』多国籍企業学会, 第16号, pp.35-52 (査読付き)。
・「台湾の視点から見た中国との政治・経済関係」, 2022年, 『改革者』, 令和4年11月号
・「台湾の視点から見たCPTPP参加の意義」, 2022年, 『改革者』, 令和4年8月号
・「自由貿易体制の展開とグローバル化: 先行研究の成果と課題」, 2022年, 『IERCU Discussion Paper』中央大学経済研究所, No.373
・「The Expansion and Challenges of Free Trade Agreements」, 2019年, 『Journal of the Asia Pacific Business & Economics Research Society』Vol.7, No.1

■研究発表

・「自由貿易の揺らぎが海外直接投資に与える影響—東アジア主要投資国からTPPとRCEPの加盟国へ—」, 2023年, 日本経済政策学会第80回全国大会
・「台湾の視点から見た中国との政治・経済関係」, 2022年, 政策研究フォーラム「中国とどう向き合うべきか」研究委員会 (オンライン)
・「外国直接投資とグローバル化に関する文献の考察と課題」, 2022年, 多国籍企業学会第14回全国大会
・「自由貿易体制の揺らぎが台湾企業の海外直接投資に与える影響」, 2020年, 日本経済政策学会第76回全国大会
・「The Expansion and the Limit concerning Free Trade Agreement」, 2019年, ICBEIT 2019 Singapore

■所属学会 日本経済政策学会, 国際開発学会, 多国籍企業学会

■取得学位 博士 (経済学) (麗澤大学)

■略歴

2021年4月 公立鳥取環境大学経営学部経営学科/大学院環境経営研究科経営学専攻准教授

■主な担当科目 国際経済論, アジア経済論Ⅰ, アジア経済論Ⅱ

SDGs関連項目



《研究内容の紹介・授業の特徴等》

ゼミでは企業の海外進出のバリューチェーン戦略について学んでいる。夏休みに、企業の様々な戦略に対する理解を深めるために、海外でのフィールドワークを実施する。

プロフィール



研究キーワード まちづくり, 担い手, 縮小社会, 共同性, 買い物支援

倉持 裕彌

地域イノベーション研究センター副センター長
准教授

KURAMOCHI, Hiromi

所属…経営学部 経営学科 大学院 環境経営研究科 経営学専攻

研究活動等

■専門分野 地域社会学, コミュニティ・ビジネス論
現在の研究テーマ

・過疎地におけるコミュニティビジネスに関する研究
・地域社会における人口減少による影響に関する研究
・買い物支援に関する研究

■著書

・『地方創生のための経営学入門』（共著）2019, 今井出版

■論文

・「過疎地におけるコミュニティビジネスの継続性に関する考察」2022, 『日本地域政策研究』第28号
・「中山間地域における高齢者の買い物行動と健康維持に関する実証分析」（共著）2015, 『都市計画論文集』第50回
・「官民の役割分担に着目した移動販売の持続可能性の改善に関する考察」（共著）2015, 『運輸政策研究』, 第18号
・「中山間地域における買い物支援に関する考察 —移動販売に着目して—」（共著）2014, 『社会技術研究論文集』, 第11号
・「地域振興における担い手の活性化の条件 —千葉県栄町商工会青年部の事例—」2005, 『日本都市社会学会年報』, 第23号

■研究報告

・「漁村地域における地域づくりに関する調査結果報告～鳥取県岩美町田後地区～」2025, 『鳥取環境大学紀要』, 第23号
・「観光列車運行に関する事例研究 —若桜鉄道のS L 観光列車運行に向けて—」2013, 『鳥取環境大学紀要』, 第11号

■報告書

・「中山間地域集落再生システム構築事業調査」2019年度, 2020年度, 鳥取県受託研究

■研究助成

・「過疎地域において地域再生を支える新たな共同性の構築に関する研究」2022-2024, 科学研究費助成事業

■所属学会 日本地域政策学会, 日本都市社会学会, 地域社会学会, 日本都市計画学会

■資格 専門社会調査士

■取得学位 社会学修士 (立教大学), 博士 (工学) (鳥取大学)

■略歴

2005年7月 財団法人とっとり政策総合研究センター着任

2015年4月 公立鳥取環境大学経営学部准教授

2018年4月 公立鳥取環境大学地域イノベーション研究センター副センター長

《先生からの一言》

日々の暮らしのなかで、いま私たちが人口減少に直面していることを実感します。このまま人が減り続けたらどうになってしまうのか、と心配にもなりますが、そんなときこそ学ぶとき。学問の知見を借りながらこれからの社会を考えてみましょう。

プロフィール



研究キーワード 地域振興, 地域農業, 担い手農家, 6次産業

山口 和宏

准教授

YAMAKUCHI, Kazuhiro

所属…経営学部 経営学科 大学院 環境経営研究科 経営学専攻

k-yama@kankyo-u.ac.jp

■専門分野 農業経済学, 地域振興論

現在の研究テーマ

- ・6次産業化企業が地域振興に果たす役割に関する研究
- ・地域の農業生産の維持・活性化と消費者に期待される役割
- ・担い手農家の農業所得の確保に向けた経営戦略に関する研究

■著書

- ・「地域を支える農協と農家」(共著), 2025年, 筑波書房
- ・「農業は農民家族経営が担う」(共著), 2024年, 筑波書房

■所属学会 日本農業経済学会, 農業問題研究学会, 食農資源経済学会, 日本農業市場学会

■取得学位 博士(農学)(九州大学)

■略歴

- 2004年4月 九州大学大学院生物資源環境科学研究科 博士後期課程修了
- 2004年5月 九州大学大学院農学研究院 学術特定研究者
- 2007年5月 佐賀大学海浜地生物環境研究センター 研究支援推進員
- 2015年4月 一般社団法人北海道地域農業研究所 専任研究員
- 2019年4月 公立鳥取環境大学経営学部 講師
- 2019年10月 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科経営学専攻 講師

■主な担当科目 農業経営論 地域振興論 観光経営論

SDGs関連項目



《研究内容の紹介・授業の特徴等》

農業や農産物を活用した地域振興に関する研究を行っています。例えば、地域外の人に足を運んでもらうために、農業や農産物をどのように活用することが出来るかとか、地域内の資源循環による環境に配慮した農業・農村振興を実現するにはどのような条件が必要かなどです。



研究キーワード 予算管理, 政府予算, 革新主義

川崎 紘宗

准教授

KAWASAKI, Hironori

所属…経営学部 経営学科 大学院 環境経営研究科 経営学専攻

■専門分野 管理会計, 予算管理, 政府会計, 会計史

現在の研究テーマ

- ・20世紀初頭のアメリカ政府予算と企業予算との関係性に関する研究
- ・アメリカの政府組織と一般企業の組織の管理に革新主義(効率性と経済性を追求する社会的ムーブメント)の思想が与えた影響についての考察

■著書

- ・『近代会計史入門(第3版)』(共著)(第11章担当), 2026年, 同文館出版。
- ・『図解 簿記・会計の基本テキスト(第2版)』(共著)(第1章・第3章～5章・第12章担当), 2026年, 同文館出版。
- ・『地方創生のための経営学』(共著)(第6章担当), 2026年, 時潮社。
- ・『非営利用語辞典』(共著)『会計監査人監査組合』, 『価格変動準備金』, 『クラウドファンディングアウト・イン』, 『予算主義』担当, 2022年, 全国公益法人協会。
- ・『地方創生のための経営学入門』(共著)(第1章担当), 2019年, 今井出版。
- ・『近代会計史入門(第2版)』(共著)(第11章担当), 2019年, 同文館出版。
- ・『基礎簿記会計(四訂版)』(共著)(第11章担当), 2016年, 五紘舎。
- ・『新版 現代会計用語辞典』(共著)『環境マネジメントシステム』, 『最終仕入原価法』, 『持続可能性』, 『製造指図書』担当, 2016年, 税務経理協会。
- ・『近代会計史入門』(共著)(第11章担当), 2014年, 同文館出版。

■論文

- ・「企業活動の枠組みを越える効率性という思考—なぜ我々は効率性という思考に捕らわれるのか—」, 2024年, 公立鳥取環境大学経営学部ディスカッションペーパー シリーズ No.2024-1。
- ・「会計研究と解釈学—ガブマーの解釈学を中心として—」, 2018年, 『松山大学論集』第30巻第4-2号 69-87頁(松山大学)。
- ・「アメリカ連邦政府における予算制度の変遷」, 2017年, 『研究紀要』第67号(http://www.takamatsu-u.ac.jp/library/06_gakunaissyupan/kiyo/no67/67_UG002_001-014_kawasaki.pdf)(高松大学)。
- ・「McKinseyによるBudgetary Control(1922)と政府の予算制度」, 2016年, 『研究紀要』第64・65号, 21-37頁(高松大学)。

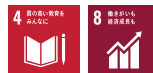
■所属学会 日本管理会計学会, 非営利法人研究学会, 日本簿記学会, 日本原価計算研究学会

■取得学位 博士(経営学)(神戸大学)

■略歴

- 2018年4月 公立鳥取環境大学 経営学部経営学科 環境経営研究科 経営学専攻 准教授

SDGs関連項目



先生からの一言

会計は企業のみならず「お金」が関係する様々な所で用いられています。この会計に携わる人には、信頼できる適正な会計情報を提供するという社会的な責任があります。このような責任を果たすために必要な専門知識を修得しましょう。



研究キーワード 社会工学, 環境指標, 動物倫理, ビーガニズム

高井 亨

准教授

TAKAI, Toru

所属…経営学部 経営学科 大学院 環境経営研究科 経営学専攻

■専門分野 社会工学

現在の研究テーマ

- ・統合型環境指標の開発
- ・持続可能な開発における動物への配慮の導入
- ・実行可能な動物倫理の社会実装

■著書

- ・『SDGsを考える一歴史・環境・経営の視点からみた持続可能な社会』（共編著）、ナカニシヤ出版、2020年

■論文

- ・「我々はまだ〈自由〉ではない:ささやかなSDG入門・応用」『兵庫教育2023・4月号』, 2023年
- ・「自由と環境のつながりからSDGsを考える:我々が変革すべきは何か」『地域づくり2021・12月号』, 2021年
- ・「SDGsの到達度を測るー正射影ベクトルを用いた統合指標作成の試み」『経済論叢』194(1), 2020年
- ・「デカップリング指標の基礎:概念・理論・測定」『公立鳥取環境大学経営学部ディスカッションペーパー』2018-4, 2019年

■所属学会 進化経済学会, 経済理論学会, 環境科学会, ヒトと動物の関係学会

■取得学位 京都大学博士(経済学)

■略歴

- 2002年3月 筑波大学第三学群社会工学類都市計画主専攻卒業
- 2004年3月 京都大学大学院エネルギー科学研究科エネルギー社会・環境科学専攻修士課程修了
- 2008年3月 京都大学大学院経済学研究科経済システム分析専攻博士後期課程修了
- 2008年4月 独立行政法人産業技術総合研究所安全科学研究部門産総研特別研究員
- 2012年4月 鳥取環境大学地域イノベーション研究センター講師
- 2014年4月 鳥取環境大学地域イノベーション研究センター准教授
- 2015年4月 公立鳥取環境大学経営学部准教授
- 2016年4月 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科経営学専攻准教授

■主な担当科目 統計学入門, ミクロ経済学, データ解析, SDGs基礎

SDGs関連項目



《研究内容の紹介・授業の特徴等》

社会における様々な価値(たとえば自然環境の保全と経済発展など)を複合的に評価するための指標の構築方法を研究している。並行して、動物倫理を社会実装するための方策について、ビーガニズムや地域猫活動の実践を素材としつつ研究している。教育、とくにゼミ指導では、自律的な自由を獲得した人格を目標とするような人間を育てたいと思っている。

研究活動等

プロフィール



研究キーワード リアリティ・ショック, ワーク・ライフ・バランス, リカバリー経験

中島 智子

准教授

NAKAJIMA, Satoko

所属…経営学部 経営学科

■専門分野 経営組織論, 人的資源管理論, 組織行動論

現在の研究テーマ

- ・若年層のリアリティ・ショックに関する研究
- ・若年層のワーク・ライフ・バランスに関する研究

■著書

- ・「第3章組織構造」(分担執筆) 俞成華・磯野誠編著『地方創生のための経営学』2026年, 時潮社

■論文

- ・「リカバリー経験の研究レビュー」2026年, 公立鳥取環境大学紀要
- ・「若年層の離職意思に対してリアリティ・ショックと私生活満足が与える影響」『日本労務学会誌』(共著) 2025年

■その他

- ・函館新聞 函館大学講座「若年就業者の組織定着について」, 2025年

■所属学会 日本経営学会, 日本労務学会, 経営行動科学学会, 組織学会

■取得学位 博士(経営学)(兵庫県立大学)

■略歴

- 2004年3月 立命館大学国際関係学部国際関係学科卒業 学士(国際関係学)
- 2006年3月 立命館大学大学院国際関係研究科博士前期課程国際関係学専攻修了 修士(国際関係学)
- 2006年4月 大阪電気通信大学専任事務職員(～2022年3月)
- 2015年9月 兵庫県立大学大学院経営研究科専門職学位課程経営専門職専攻修了 経営管理修士(専門職)
- 2021年3月 兵庫県立大学大学院経営学研究科博士後期課程経営学専攻修了 博士(経営学)
- 2021年4月 兵庫県立大学国際商経学部客員研究員(～2022年3月)
- 2022年4月 函館大学商学部商学科専任講師
- 2024年4月 函館大学商学部商学科准教授
- 2025年4月 公立鳥取環境大学経営学部経営学科准教授
- 2026年4月 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科経営学専攻 准教授

■主な担当科目 経営学入門, 経営組織論1・2

SDGs関連項目



《研究内容の紹介・授業の特徴等》

現代は組織の時代と言われ、人々は何らかの形で組織の活動に参加しています。組織は大規模化し、組織における活動は複雑化しています。経営組織論を通して、人はなぜ働くのか、自分はどのような組織で働きたいのかといった問いについて一緒に考えていきましょう。

研究活動等

プロフィール



研究キーワード NPO(Non-Profit Organization), PPP (Public Private Partnership), NPM(New Public Management)

下境 芳典

准教授

SHIMOSAKAI, Yoshinori

所属…経営学部 経営学科 大学院 環境経営研究科 経営学専攻

■専門分野 経営学, 非営利組織論, 公共経営論
現在の研究テーマ
・経営学領域で培われた理論の非営利組織への応用

著書

- ・『地方創生のための経営学』(共著), 2026年, 時潮社
- ・『東日本大震災から見る現代日本社会』(共編), 2019年, 東北大学高度教養教育・学生支援機構 課外・ボランティア活動支援センター

論文

- ・『A Decade Revealed by NPO Financial Data in a Depopulating Region – Tottori Prefecture, Japan, 2014–2023 』2026年, 『Japanese Society and Culture』, No. 8
- ・『The Relationship Between Public-Private Partnership and Creating Shared Value: a Case study of Y-Port Project in Yokohama City』, 2023年, 『東日本国際大学研究紀要』No.28 1号
- ・『ステークホルダー理論を事例研究の分析フレームワーク化する試み』, 2023年, 『現代社会研究』(20)
- ・『エージェンシー関係とスチュワードシップ関係の併存 ー独立行政法人を例にした考察ー』, 2022年, 『東日本国際大学研究紀要』 No.27 1号
- ・『組織のトップの属性と経営の効率化の関係ー独立行政法人を対象にした実証研究ー』, 2021年, 『現代社会研究』(18)
- ・『新しい企業成長モデルの構築と試験的実証』, 2016年, 『経営教育研究』19(1)

学会発表

- ・『Impact of External Factors on Local NPO Activities: A Case Study of Tottori Prefecture』, 2025年, 13th ISTR Asia-Pacific Regional Conference
- ・『学生アンケートに見るGMS衰退の原因ーイトーヨーカドー平店を例にー』, 2024年, 日本マネジメント学会北海道東北部会
- ・『エージェンシー関係とスチュワードシップ関係の併存 ー独立行政法人を例にした考察ー』, 2022年, 日本マネジメント学会北海道東北部会

所属学会

日本マネジメント学会, 組織学会, 日本NPO学会, International Society for Third Sector Research

■取得学位 博士(経営学)(東北大学)

略歴

- 2024年4月 公立鳥取環境大学経営学部経営学科 准教授
- 2025年4月 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科経営学専攻 准教授

■主な担当科目 非営利組織論, 公共経営論, 地域政策論

＜研究内容の紹介・授業の特徴等＞

経営学は企業の経営についてだけ学ぶものだと思われがちですが, その対象は, 病院や学校, 地方自治体, ボランティア団体なども含まれていて, とても幅広いです。いろいろな組織の経営を効率化するにはどうしたらよいのか考えています。

プロフィール



研究キーワード 介護サービス産業, 地域労働市場, 介護サービス労働力, 介護福祉士, 外国人介護職員

佐藤 彩子

准教授

SATO, Ayako

所属…経営学部 経営学科 大学院 環境経営研究科 経営学専攻

■専門分野 地域経済学, 経済地理学
現在の研究テーマ
・介護サービスの産業特性に関する研究
・介護サービス地域労働市場に関する研究
・外国人介護職員の流入過程と就業特性に関する研究

著書

- ・『経済地理学事典』(共著), 2024年, 丸善出版

論文・紀要

- ・『国内周辺地域における特別養護老人ホーム介護職員の就業と定着: 福岡県筑豊地域を事例として』, 2025年, 『公立鳥取環境大学紀要2025』
- ・『在住外国人の動向と多文化共生ー福岡県を対象としてー』, 2023年, 『ディスカッションペーパーシリーズ』第1号(公立鳥取環境大学経営学部)
- ・『「介護」の特定技能1号外国人の受入実態と課題ー大都市圏集中傾向に焦点をあててー』, 2022年, 『日本地域政策研究』第29号(日本地域政策学会)
- ・『介護福祉士確保への取組みと就業特性: 大分市の特別養護老人ホームを事例として』, 2020年, 『地理科学』第75巻(地理科学学会)
- ・『介護サービス労働力の質的不足の地域差』, 2019年, 『公立鳥取環境大学紀要』第16号
- ・『介護サービスの産業特性と労働市場に関する研究: 福岡県を事例として』, 2017年, 九州大学博士論文
- ・『居宅サービス企業における経営資源, 顧客確保とネットワークー福岡市に立地する企業を事例としてー』, 2016年, 『地域経済学研究』第31号(日本地域経済学会)

報告書

- ・『日本で働く外国人労働者ー福岡県の外国人介護職員に焦点を当ててー』, 2021年, 2020年度サステナビリティ研究所事業報告書

その他

- ・『「医療, 福祉」の労働力不足を補う外国人労働者ー地域差に焦点をあててー』, 2024年4月, ケアスル介護コラム <https://caresul-kaigo.jp/column/articles/35523/> ((株)Speee)
- ・『介護サービス産業における労働力不足問題と外国人労働者の制度的受入』, 2022年, 『地域ケアリング』2022年6月号(北隆館)
- ・『都道府県スケールでみた介護サービス労働力の量的・質的不足の地域差』, 2020年, 『地域ケアリング』2020年3月号(北隆館)
- ・『地域系ゼミによる教育活動の実践 ー島根県隠岐郡海士町でのフィールド調査からー』, 2020年, 『日本地域政策研究』第24号(日本地域政策学会)

所属学会

経済地理学会, 日本地理学会, 地理科学学会, 日本地域経済学会, 日本地域政策学会

■取得学位 博士(経済学)(九州大学)

略歴

- 2022年4月 公立鳥取環境大学経営学部経営学科准教授
- 公立鳥取環境大学大学院環境経営研究科経営学専攻准教授
- 公立鳥取環境大学サステナビリティ研究所副所長(〜2023年3月)

研究活動等

プロフィール

SDGs関連項目



＜研究内容の紹介・授業の特徴等＞

フィールドワークを通して介護サービス労働力と地域との関係进行研究しています。一般に世の中で生じている事象には地域の個性が反映されていることが多く, 授業でもフィールドワークを行い地域の実態を明らかにすることを重視しています。



研究キーワード 社会的受容性, 再生可能エネルギー, 風力発電, 選択型実験

岩田 健吾

講師

IWATA, Kengo

所属…経営学部 経営学科

■専門分野 環境経済学, エネルギー経済論

現在の研究テーマ

- ・再生可能エネルギー（再エネ）の社会的受容性に関する研究
- ・再エネに対する人々の選好評価
- ・再エネの地域経済効果分析

■論文

- ・「プロファイルへの支出を伴うコンジョイント分析で使用される効用関数についての考察」（共著）2025年『追手門経済論集』第59巻第2号
- ・「陸上風力発電に対する住民の選好－配分的正義に着目した選択型実験による分析－」（共著）2024年『KIER Discussion Paper Series』No.2303
- ・「Local Citizens' Preferences for Offshore Wind Turbine Development: An Empirical Evidence from Four Prospective Prefectures in Japan」（共著）2024年『KIER Discussion Paper Series』No.1101
- ・「木質バイオマスCHP事業の地域経済効果分析と先進技術の内製化を通じた地域付加価値の向上に関する考察 ～宮崎県串間市の地域付加価値分析を通して～」（共著, 責任著者）2023年『国際公共経済研究』, 第34巻第1号
- ・「Public attitudes of offshore wind energy in Japan: An empirical study using choice experiments」（共著, 筆頭）2023年『Cleaner Energy Systems』4, 100052.
- ・「Social Acceptance of Wind Turbines: An Empirical Study Using Choice Experiments」（共著, 筆頭）2022年『43rd IAEE International Conference.』
- ・「The advocacy coalition framework in Japan: Contributions to policy process studies and the challenges involved」（共著）2021年『Review of Policy Research』39(1), 32-50.
- ・「森林生態系サービスの経済価値評価-滋賀県の水源林を事例として」（共著, 筆頭）2021年『森林応用研究』, 第30巻第1号

■所属学会 環境経済・政策学会, 日本風力エネルギー学会, 国際公共経済学会

■取得学位 博士（地球環境学）（京都大学）

■略歴

- 2017年3月 京都大学大学院 農学研究科 修士課程修了
- 2023年3月 京都大学大学院 地球環境学 博士後期課程修了
- 2023年4月 京都大学経済研究所（先端政策分析研究センター） 研究員
- 2024年4月 公立鳥取環境大学 経営学部経営学科 特任講師
- 2025年4月 公立鳥取環境大学 経営学部経営学科 講師

■主な担当科目 環境経営論, 共生経営論

《研究内容の紹介・授業の特徴等》

環境経済学を専門とし、特に再生可能エネルギーの普及促進に関する研究に取り組んでいます。計量経済学的手法を用いた定量分析を通じて、人々の選好や態度、社会的受容性の解明を進めています。再生可能エネルギーと地域社会のより良い共生のあり方を探究しています。

経営学部



研究キーワード 持続性, 人工生態系, 適正技術, バイオリージョナリズム, 文明

荒田 鉄二

ARATA, Tetsuji

人間形成教育センター長, 国際交流センター長
教授

所属…環境学部 環境学科 大学院 環境経営研究科 環境学専攻
人間形成教育センター

t2-arata@kankyo-u.ac.jp

■専門分野 環境哲学, 持続性学, 文明論
現在の研究テーマ

- ・持続不可能性の根源に関する研究
- ・文明の避難場所づくりに関する研究
- ・未来世代の権利の制度化に関する研究

■著書

- ・地球市民の心と知恵 (共著), 21世紀の環境と文明を考える会, 1997年9月, 中央法規

■論文

- ・地政学が語る西洋の終わり — 国民国家を破壊した資本主義 (単著), Vol.33 No.10, 2025年, NPO法人環境文明21
- ・なぜ世界は持続可能にならないのか (単著), Vol.33 No.6, 2025年, NPO法人環境文明21
- ・「成長」という呪縛 (単著), 環境と文明, Vol.32 No.2, 2024年, NPO法人環境文明21
- ・人間にできて, AIにはできないこと (単著), 環境と文明, Vol.31 No.9, 2023年, NPO法人環境文明21
- ・過剰開発: ドイツに行きって考えたこと (単著), KIESS MAIL NEWS, 2020年1月, NPO法人循環共生社会システム研究所
- ・ローマは1日にして滅びずーガブリエルとオルテガをめぐって (単著), KIESS MAIL NEWS, 2018年12月, NPO法人循環共生社会システム研究所

■所属学会 地球システム・倫理学会, 環境社会学会 ほか

《研究内容の紹介・授業の特徴等》

環境NPO職員だった頃から環境倫理に関するプロジェクトに関わってきました。環境倫理の主要な論点に世代間倫理があります。現在は、司法制度を通じて未来世代の権利を守ることを念頭に、未来世代の権利の制度化に関する研究に取り組んでいます。

研究活動等

プロフィール

■取得学位 修士 (農学) (東京農工大学)

■略歴

- 1985年3月 千葉大学 園芸学部 環境緑地学科 卒業
- 1985年4月 株式会社 エックス都市研究所 研究員
- 1992年3月 東京農工大学 大学院 農学研究科 環境保護学専攻 (修士課程) 修了
- 1993年7月 21世紀の環境と文明を考える会 (1999年10月にNPO法人 環境文明21に改称) 主任研究員
- 2004年4月 吉備国際大学 政策マネジメント学部 (環境リスクマネジメント学科) 准教授
- 2009年4月 鳥取環境大学環境マネジメント学科准教授
- 2018年10月 公立鳥取環境大学環境学部環境学科教授, 大学院環境経営研究科環境学専攻教授



研究キーワード 構成的数学, モデル検査, 定理証明

吉田 聡

YOSHIDA, Satoru

人間形成教育センター副センター長
教授

所属…人間形成教育センター

URL <http://misc.kankyo-u.ac.jp/~satoru-y/>

■専門分野 数理論理学

現在の研究テーマ

- ・解析学理論の計算可能性の研究
- ・数理的技法によるコンピュータシステムの検証に関する研究

■報告書

- ・「A note on upper continuity properties of relations」(共著), Rep. Fac. Sci. (鹿児島大学), vol. 54(2021), pp.1-7.
- ・「A note on continuity properties of relations」(共著), Rep. Fac. Sci. (鹿児島大学), vol.52(2019), pp.1-6.
- ・「On a certain discontinuous mapping as a continuous relation」(共著), 2018年, 京都大学数理解析研究所講義録2083, pp150-155.
- ・「ソフトウェア更新システムプロトコルの様相論理S4に基づく検証」, 2016年, 公立鳥取環境大学紀要, vol. 14, pp.95-103.

■口頭発表

- ・「choice と lambda-tequnique」, 2023年9月, 第34回代数, 論理, 幾何と情報科学研究集会(ALGI), 湘南工科大学.
- ・「構成的解析学における関係の連続性」, 2021年8月, 第38回記号論理と情報科学 研究集会(ALACS), オンライン.
- ・「関係の各点連続性と点列連続性」, 2020年2月, 第7回山陰基礎論・解析学研究集会, 米子コンベンションセンター.
- ・「構成的数学の体系と実践」, 2017年6月, 第179回数学文献を読む会, 共立出版社.

■所属学会 日本数学会, 日本科学哲学会

■取得学位 博士 (情報科学) (北陸先端科学技術大学院大学)

■略歴

- 2005年8月 産業技術総合研究所・産総研特別研究員
- 2009年8月 鳥取環境大学情報システム学科講師
- 2013年10月 鳥取環境大学人間形成教育センター准教授
- 2022年4月 公立鳥取環境大学人間形成教育センター教授
- 2026年4月 公立鳥取環境大学人間形成教育センター副センター長

■主な担当科目 数理基礎, 微分積分学, 離散数学

SDGs関連項目



《先生からの一言》

私は数学的定理に対する証明の論理に注目し, コンピュータによる実行の仕方を明らかにする証明(構成的証明)を考察しています。学生の皆さんと, 社会とコンピュータ, そしてその背景にある数理について学んでいきたいと思います。

研究活動等

プロフィール



研究キーワード 英語教育, コミュニケーション不安, 音響分析

中村 弘子

教授

NAKAMURA, Hiroko

所属…人間形成教育センター

h-nakamu@kankyo-u.ac.jp

研究活動等

■専門分野 英語教育, 応用言語学, 言語障害
現在の研究テーマ

- ・日本人のコミュニケーション不安と外国語学習不安
- ・日本人のコミュニケーション不安に関する音響学的分析
- ・言語リズムの習得と母語の干渉について

■著書

- ・「大学・高専・短大生のための英文法再入門」(分担執筆), 2019, 開拓社

■論文

- ・Effects of Personality Traits and Affective Factors on English Prosodic Features in Japanese University Students: Acoustic and Physiological Analyses. (共著) 2024. JACET Selected Paper 10, 101-131.
- ・Effects of L1 and L2 communication apprehension on speaking skills of Japanese university students. (共著) 2023, English Language Teaching, 16(5), 1-9.
- ・「性格的特性および情意要因が日本人大学生のスピーキング・スキルに及ぼす影響」, 2022, 『ことばの科学研究』第23号, 23-41.

■辞典

- ・「スピーキングのモデル」「サーキットモデル」「ロゴジェンモデル」「サーチモデル」他, 2003, 『応用言語学辞典』, 研究社

■国際会議

- ・Effects of personality traits and affective factors on English prosodic features in Japanese university students: Acoustic and physiological analyses. 2024, The 63rd JACET International Convention, Nagoya, Japan

■受賞歴 1988年 国際ロータリー財団大学院留学奨励賞

■所属学会

大学英語教育学会, 外国語教育メディア学会, 日本音声学会, ことばの科学会, 全国英語教育学会

■資格 実用英語技能検定1級, TOEIC®スコア950点, 高等学校教諭専修免許状(英語)

プロフィール

■取得学位

学術博士(神戸大学), 文学修士(神戸市外国語大学), Master of Arts(コネチカット大学)

■略歴

- 1988年3月 神戸市外国語大学大学院外国語学研究科修士課程英語学専攻修了
- 2002年4月 筑波大学外国語センター非常勤講師
- 2004年6月 米国コネチカット州立コネチカット大学コミュニケーション・サイエンス研究科修士課程修了
- 2009年9月 鳥取環境大学人間形成教育センター准教授
- 2024年4月 公立鳥取環境大学人間形成教育センター教授

■主な担当科目 Intensive English, 基礎英語能力養成, 応用英語能力養成

《研究内容の紹介・授業の特徴等》

日本人英語学習者のスピーキング力向上を阻害する要因の一つである「不安」の低減を目的に、オーラル・インタープリテーション(原文を精読し、声による表現を通じて伝達する活動)を応用したプロソディ指導を実施しています。



研究キーワード 通信プロトコル, アプリケーション, プログラミング

波多 浩昭

教授

HATA, Hiroaki

所属…人間形成教育センター

研究活動等

■専門分野 情報ネットワーク, 通信ソフトウェア, エッジAI

現在の研究テーマ

- ・通信プロトコル開発
- ・AIによる動画物体検知を用いた一人で測れる陸上短距離向けストップウォッチの開発
- ・日常会話から特殊詐欺を検出するAIシステムの開発

■著書

- ・「インターネットルーティングプロトコル」(共訳), 2002年, プレンティスホール社
- ・「いまどきのソケットプログラミング」(単著), 2004年, 日経BP社

■論文

- ・「Development of a Low-Cost Automatic Sprint Time Measurement System Using a Single-Board Computer」(共著), EEJ Journal of Industry Applications 14(4) 583-588 2025
- ・「A Phone Scam Repulsion Device and its Extension to Personal Life Assistance Applications」(単著), The 42nd IEEE International Conference on Consumer Electronics (ICCE 2025) 2025
- ・特殊詐欺電話を撃退するための電話アダプタ装置の開発(共著) 電子情報通信学会論文誌 B J105-B(7) 525-526 2022年7月
- ・ブロックチェーンを用いた地方交通機関向け交通ICカードシステムと地域経済通貨としての応用(共著) 電気学会論文誌C, 141(8)903-908, 2021

■報告書

- ・「日常会話を分析し自発的に利用者をサポートするパートナーAIの開発」(共著) 電子情報通信学会超知性ネットワーク研究会(RISING2024) 2024年

■特許

- ・国際特許WO2009-093308 接続制御方法, 接続制御サーバ装置, 接続制御クライアント装置, 及びプログラム 他約20件

■所属学会 電子情報通信学会, 電気学会

プロフィール

■取得学位

博士(工学)(鳥取大学)

■略歴

- 1988年3月 鳥取大学大学院工学研究科修士課程修了
- 1988年4月 日本電信電話株式会社入社
- 2008年3月 鳥取大学大学院工学研究科後期博士課程修了
- 2019年4月 福井工業高等専門学校電子情報工学科教授
- 2026年4月 公立鳥取環境大学人間形成教育センター教授

■主な担当科目 情報システム基礎, 情報リテラシー I/II

SDGs関連項目



《研究内容の紹介・授業の特徴等》

授業では技術的な基礎事項, AIやDX, ブロックチェーンの応用, そしてITにかかわる法務, 財務, 戦略を講義しています。研究ではICT技術を使って, 電話を使った特殊詐欺の対策や日常会話分析による個人の生活支援の実現を目指しています。



研究キーワード 非ネイティブの意識, 英語苦手意識, 「英語脳」を作ること, 「使える英語」, CEFR

徳山 瑞文

TOKUYAMA, Mizufumi

教授

所属…人間形成教育センター

tokuyama@kankyo-u.ac.jp

■専門分野 英語教育

現在の研究テーマ

- ・日本人の英語勉強法に関する研究
- ・英語能力の尺度「CEFR」に関する研究
- ・世界の英語

■論文

- ・「English Education of the New Century in Japan」2003年, 「鳥取大学英語研究」第4号

■報告書

- ・「Is It Necessary to Use "All English" for the Classes of ESL?」2015年, 中国地区英語教育学会

■受賞歴 1998年 中国吉林省教育学院 青年優秀教師賞

■所属学会 日本全国英語教育学会, 中国地区英語教育学会

■資格 中国大学教師資格

■取得学位 教科教育修士 (鳥取大学)

■略歴

- 1987年7月 中国東北師範大学外国語学部英語学科卒業
- 1987年7月 中国吉林省教育学院 英語教師
- 1999年4月 鳥取県立青谷高等学校にて日本文部省JETプログラムの外国語助手 (ALT)
- 2003年3月 鳥取大学大学院教育学部教育学研究科教科英語教育修了
- 2003年4月 鳥取環境大学 英語非常勤講師
- 2017年4月 公立鳥取環境大学 英語特任講師
- 2019年4月 公立鳥取環境大学 人間形成教育センター 教授

■主な担当科目 Intensive English 2, 4, 6, 8

《研究内容の紹介・授業の特徴等》

AIの進歩によって, 英語が国際共通語として, どのような英語教育をすべきかという問題を誰も考えていると思います。多様化する世界の英語の中で外国語として英語を学ぶ人々にとって, わかりやすく学習しやすい英語を目指す傾向が強まっています。



研究キーワード 発音, 談話イントネーション, コミュニケーション能力, ELT materials design

バンヴィル ショーン

BANVILLE, Sean

准教授

所属…人間形成教育センター

<https://breakingnewsenglish.com/>

banville@kankyo-u.ac.jp

■専門分野 英語教育

現在の研究テーマ

- ・How a Discourse Intonation approach can advance communicative pronunciation and communicative competence and performance.

■著書

- ・「Lessons on Japan 1 - Listening & Speaking」(原著者) Sean BANVILLE, 2025年, Imaishoten, ISBN 978-4-86611-429-3
- ・「Lessons on Japan 1 - Reading & Writing」(原著者) Sean BANVILLE, 2025年, Imaishoten, ISBN 978-4-86611-430-9
- ・「Breaking News Listening Student Book」(共著) Nobuhiro KUMAI, Stephen TIMSON, Sean BANVILLE, 2010年, MacMillan Language House

■口頭発表

- ・Chief Judge at Chugoku High School Speech Contest, Tottori, November, 2024
- ・ChatGPT - A Threat or a Productive Tool? JALT, Kyoto, March 2023
- ・Role Plays - Activities with the Potential to Teach Everything, JALT, Tottori, June 2017
- ・What's news? ISTEK ELT Conference: Istanbul, Turkey, April, 2010
- ・Punctuation Communicates. Cultivating Real Writers Conference, Al Ain, UAE, October, 2009

■開発した教材等

- Breaking News English.com
- 1. <https://BreakingNewsEnglish.com> 時事ニュースを基にした3,600+の4技能インタラクティブレッスンと27ページのワークシート。

■受賞歴

Nominated for プリティッシュ・カウンシル award for Innovation in Learner Resources

■所属学会 Japan Association of Language Teachers (JALT)

■資格

- 1987 - BSc Accountancy (Econ, honours)
- 1993 - RSA CTEFLA
- 2003 - Master of Arts in Teaching English as a Foreign/Second Language (with Distinction)

■取得学位

学士 (会計学) カーディフ大学 ウェールズ)
TEFL/TESL(修士) (バーミンガム大学 イギリス)

■略歴

- 2003年9月 バーミンガム大学 イギリス 修了 (修士: TEFL/TESL)
- 2006年1月 Higher Colleges of Technology
フアンデーションコース チームリーダー アブダビ女子大学・カリキュラムデザイン, オンラインレッスン アラブ首長国連邦・ブレンディッドラーニング チームリーダー
- 2022年4月 公立鳥取環境大学 人間形成教育センター 准教授

SDGs関連項目



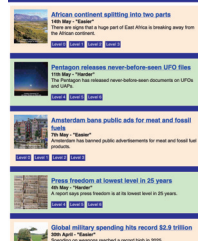
《研究内容の紹介・授業の特徴等》

I've made 10 educational websites that are used worldwide. One was nominated for a British Council award for "Innovation in Learner Resources." I've published two all-skills textbooks called "Lessons on Japan." I will continue to make materials that engage students.

Breaking News English

3,624 Free English News Lessons in 7 Levels

Latest News Lessons - May 14, 2025





研究キーワード 生成AI, 大規模言語モデル, AIエージェント, 自動プログラミング, 自動翻訳

市丸 夏樹

准教授

ICHIMARU, Natsuki

所属…人間形成教育センター

■**専門分野** 人工知能, 自然言語処理, 計算言語学

現在の研究テーマ

- ・サブワードトークナイザにおける接辞処理
- ・自動要約
- ・MS-Officeファイルの自動採点AI

URL <http://misc.kankyo-u.ac.jp/~ichimaru/>

E-mail ichimaru@kankyo-u.ac.jp

SDGs関連項目



研究活動等

■論文

- ・"Thesaurus Granularity and its effects on the Kana/Kanji Transliteration of Japanese Derivative Words", 2013年9月, In proceedings of the International Conference of Pacific Association for Computational Linguistics, PACLING2013.

■**所属学会** 人工知能学会, 情報処理学会

《研究内容の紹介・授業の特徴等》

利用料金と情報漏洩の心配がないローカルLLMにファインチューニングを施し, 自作のAIPCで業務の自動化に取り組んでいます。

プロフィール

■**取得学位** 博士 (工学) (九州大学)

■略歴

- 1990年3月 九州大学工学部電子工学科卒業
- 1992年3月 九州大学大学院総合理工学研究科情報システム学専攻 博士前期課程修了
- 1995年3月 九州大学大学院総合理工学研究科博士後期課程単位取得退学
- 1995年4月 九州大学工学部情報工学科助手
- 1998年4月 九州大学大学院システム情報科学研究科兼任
- 2006年4月 鳥取環境大学環境情報学部情報システム学科講師
- 2007年4月 鳥取環境大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻情報システム領域兼務
- 2008年4月 鳥取環境大学環境情報学部情報システム学科准教授
- 2012年4月～ 鳥取環境大学人間形成教育センター准教授
- 2015年4月～ 公立鳥取環境大学人間形成教育センター准教授

■**主な担当科目** 情報リテラシ1・2, プロジェクト研究1～4, (経営学部) 専門演習1～3



研究キーワード サイバーフィジカルシステム, 脱炭素, 説明可能なAI

堀 磨伊也

サステナビリティ研究所副所長
准教授

HORI, Maiya

所属…人間形成教育センター 大学院 環境経営研究科 環境学専攻, 経営学専攻

■**専門分野** 情報科学

現在の研究テーマ

- ・AIの局所解釈性の活用による行動変容を用いた持続可能なエネルギーマネジメント
- ・AI技術を活用した防災教育ARシステムの開発

URL <https://tues-ailab.jp/>

E-mail m-hori@kankyo-u.ac.jp

SDGs関連項目



研究活動等

■論文

- ・[A Probabilistic Framework for Effective Battery Energy Storage Sizing in Microgrids with Demand Response] (共著), 2026, Scientific Reports
- ・[A Multi-Layer Techno-Economic-Environmental Energy Management Optimization in Cooperative Multi-Microgrids with Demand Response Program and Uncertainties Consideration] (共著), 2024, Scientific Reports
- ・[Developing Hybrid Demand Response Technique for Energy Management in Microgrid Based on Pelican Optimization Algorithm] (共著), 2023, Electric Power Systems Research
- ・[Developing an Artificial Hummingbird Algorithm for Probabilistic Energy Management of Microgrids Considering Demand Response] (共著), 2022, Frontiers in Energy Research

■外部資金獲得

- ・科研費 (基盤研究(C)) 「AIの局所解釈性の活用による行動変容を用いた持続可能なエネルギーマネジメント」 (代表者), 2025～2027年度
- ・公益財団法人 三井住友海上福祉財団「災害発生時における学習拠点への安全な移動の実現」(分担者)2025年11月～2026年10月

■**受賞歴** 2022年 電気通信普及財団賞 (テレコム学際研究賞)

■**所属学会** 電子情報通信学会, 情報処理学会, 電気学会, IEEE

■**資格** 脱炭素アドバイザーアドバンスト

《研究内容の紹介・授業の特徴等》

AIの解釈性を活かしたエネルギーマネジメントや, AR防災教育システム等の持続可能な社会を創る研究に取り組んでいます。また脱炭素アドバイザー育成も推進し, 環境課題に挑む実践的な次世代リーダーを輩出します。

プロフィール

■**取得学位** 博士 (工学) (奈良先端科学技術大学院大学)

■略歴

- 2005年3月 大阪大学基礎工学部システム科学科 卒業
- 2011年6月 奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士後期課程 修了, 博士 (工学)
- 2018年4月 九州大学エネルギー研究教育機構 准教授
- 2022年4月 公立鳥取環境大学人間形成教育センター 准教授
- 2023年4月 公立鳥取環境大学サステナビリティ研究所副所長

■**主な担当科目** AI, 画像処理, パターン認識



研究キーワード 宇宙惑星探査, 地球近傍小惑星, プラネタリーディフェンス

北里 宏平

准教授

KITAZATO, Kohei

所属…人間形成教育センター

kitazato@kankyo-u.ac.jp

■専門分野 宇宙情報科学, データサイエンス

現在の研究テーマ

- ・小惑星に生成する水の解明と地球の海洋形成への寄与
- ・地球に衝突する危険性のある小惑星の物理化学特性

研究活動等

■著書

- ・「小惑星リュウグウ探査プロジェクト「はやぶさ2」のすべて」(共著), 2020年, 誠文堂新光社

■論文

- ・「Surface rejuvenation of stony near-Earth asteroids triggered by planetary shadows」(共著), 2026年, Nature Geoscience, 19, 247-252
- ・「Preliminary analysis of the Hayabusa2 samples returned from C-type asteroid Ryugu」(共著), 2021年, Nature Astronomy, 6, 214-220
- ・「Thermally altered subsurface material of asteroid (162173) Ryugu」(共著), 2021年, Nature Astronomy, 5, 246-250
- ・「The surface composition of asteroid 162173 Ryugu from Hayabusa2 near-infrared spectroscopy」(共著), 2019年, Science, 364, 272-275
- ・「Hayabusa2 arrives at the carbonaceous asteroid 162173 Ryugu—A spinning top-shaped rubble pile」(共著), 2019年, Science, 364, 268-272

■所属学会 日本惑星科学会, 日本天文学会, 日本地球惑星科学連合, 情報処理学会

■取得学位 博士(理学)(東京大学)

■略歴

- 2008年3月 東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻博士課程修了
- 2008年4月 神戸大学大学院理学研究科 日本学術振興会特別研究員
- 2009年4月 会津大学先端情報科学研究センター 准教授
- 2015年4月 会津大学コンピュータ理工学部 准教授
- 2016年4月 宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所 客員准教授
- 2025年4月 会津大学コンピュータ理工学部 上級准教授
- 2026年4月 公立鳥取環境大学人間形成教育センター 准教授

■主な担当科目

データサイエンス, データサイエンス実践演習, AMD実践演習A, 情報リテラシ1, 情報リテラシ2

《研究内容の紹介・授業の特徴等》

私たちの住む地球の近くには、「小惑星」と呼ばれる岩石質の小天体が数多く存在しています。近年、小惑星衝突は重大な自然災害の一つとして広く認知されるようになり、地球の安全に対する関心が世界的に高まっています。当研究室では、小惑星の実態や進化過程を明らかにし、将来の衝突リスクの評価や宇宙防災に役立つ知見の獲得を目指しています。

プロフィール



研究キーワード 多重ゼータ値, ルート系のゼータ関数, Schur多重ゼータ関数, グラフラムゼータ数

門田 慎也

講師

KADOTA, Shinya

所属…人間形成教育センター

■専門分野 解析的整数論

現在の研究テーマ

- ・ルート系のゼータ関数の特殊値に関する研究
- ・ルート系のゼータ値が生成するベクトル空間について
- ・多重ゼータ値の関係式に関する研究

研究活動等

■著書

- ・「ルート系のゼータ関数の理論入門」, 松本耕二, 記述: 門田慎也, 監修: 大野泰生, 千田雅隆, 2018年, 東北大学大学院理学研究科

■論文

- ・「Sum formulas for Schur multiple zeta values」(共著), 2023年, Journal of Combinatorial Theory, Series A 200 105781-105781.
- ・「On the parity result for multiple Dirichlet series」, 2022年, Kyushu Journal of Mathematics 76(1) 1-11.
- ・「On a unified double zeta function of Mordell-Tornheim type」(共著), 2022年, Lithuanian Mathematical Journal 62(2) 207-217.
- ・「The graph Ramsey number $R(F_{\text{ell}}, K_6)$ 」(共著), 2019年, Discrete Mathematics 342(4) 1028-1037.

■報告書

- ・「Riemannゼータ関数の基本的性質, 関数等式, 整数点での値」, 2026年1月, 第32回整数論サマースクール「ゼータ関数の解析的理論」報告集
- ・「On a unified double zeta function of Mordell-Tornheim type」(共著), 2023年7月, 数理解析研究所講究録2259 解析的整数論とその周辺.
- ・「On the special values of certain multiple Dirichlet series」, 2019年10月, 数理解析研究所講究録2131 解析的整数論とその周辺.
- ・「On the special values of the zeta function associated with simple Lie algebra type G_2 」(共著), 2018年11月, 数理解析研究所講究録2092 解析的整数論とその周辺.

■講演・口頭発表

- ・「ルート系のゼータ値を足してみた」, 2026年1月, 第15回不老町解析数論セミナー
- ・「ルート系のゼータ値のある種の和について」, 2025年11月, 横浜整数論研究集会
- ・「Riemann ゼータ関数の基本的性質, 関数等式, 整数点での値」, 2025年9月, 2025年度(第32回) 整数論サマースクール「ゼータ関数の解析的理論」
- ・「On a unified double zeta function of Mordell-Tornheim type」, 2022年10月, RIMS Workshop 2022 Analytic Number Theory and Related Topics.

■所属学会 日本数学会

■取得学位 博士(数理学)(名古屋大学)

■略歴

- 2025年4月 公立鳥取環境大学人間形成教育センター 講師

《先生からの一言》

みなさんには、夢中になれるものがありますか？夢中になれるものがまだない人は、いろんなことに挑戦してみてください。「なんとなく」とか「好きだから」という理由で始めたことに夢中になれるかもしれない。夢中になれるものを見つけ、思い出に残る楽しい大学生活を送ってみませんか？

インタビュー



研究キーワード 異文化間コミュニケーション, 異文化間能力文化交流, 文化多様性, ハイコンテキスト・ローコンテキスト

モウア ジェニファー

講師

MOUA, Jennifer

所属…人間形成教育センター

■専門分野 英語教育

現在の研究テーマ

- ・ Intercultural Communication: How people from different cultures can connect, convey, and communicate

■論文

- ・ Top Ten Effective Reading and Writing Strategies 2020年 Biola University
- ・ NGSL and its Relation to Student Learning 2020年 Biola University
- ・ A Retrospective Analysis of My SLA Journey 2020年 Biola University

■受賞歴 2019年 Clyde and Anna Belle Cook Scholarship Award

■所属学会

Biola TESOL Connection, Central Japan Language Teachers, Online Teaching Japan, Tottori JALT (Japan Association for Language Teaching)

■取得学位

芸術学士 (カリフォルニアフラトン大学) M.A. TESOL文学修士 (バイオラ大学)

■略歴

- 2014年5月 米国フラトンカレッジ芸術学部 芸術学科 卒業
- 2016年5月 米国カリフォルニア州立カリフォルニアフラトン大学芸術学部 芸術学科 卒業
- 2017年2月 三重サンシャインスクール英会話教師, 音楽教師
- 2020年12月 米国バイオラ大学大学院 国際文化学部 M.A. TESOL学科 卒業
- 2019年7月 米国バイオラ大学レトリックおよびライティングセンター (Rhetoric and Writing Center) 大学院生のコンサルティング
- 2020年2月 米国ホープインタナショナル大学インターンシップ
- 2021年4月 公立鳥取環境大学人間形成教育センター非常勤講師
- 2022年4月 鳥取大学非常勤講師
- 2022年4月 公立鳥取環境大学人間形成教育センター特任講師
- 2024年4月 公立鳥取環境大学人間形成教育センター講師

《先生からの一言》

It is such a joy to be a part of the Intensive English Program. You will create wonderful connections with your classmates and your teacher. I am here to help you and make sure you will learn and enjoy your English classes, English is a widely-spoken global language and I want you to be a part of it. I believe in you, I am listening to you, and know that your future starts from here.

TUES

Tottori
University of
Environmental
Studies



公立鳥取環境大学

Tottori University of Environmental Studies

環境学部 環境学科 経営学部 経営学科 大学院 環境経営研究科

〒689-1111 鳥取市若葉台北一丁目1番1号
TEL 0857-38-6700(代表) FAX 0857-38-6709
E-mail info@kankyo-u.ac.jp

研究者詳細 <https://www.kankyo-u.ac.jp/about/publication/#soran>



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS